

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
A 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか	Yes	Yes 千葉県立美術館の使命は、館内に掲示するとともに、ホームページ及び印刷物(要覧)で公開している。	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
A 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。	引き続き具体的計画の策定と、計画実現のための手法を研究する。	骨子案をもとに具体化策を検討し、計画を策定している。	引き続き具体的計画の策定と、計画実現のための手法を研究する。	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
A 自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか	Yes	Yes	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 外部評価	外部評価委員会による外部評価を行っているか	Yes	Yes	Yes	
C 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか	Yes	Yes	Yes	
D 評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。	Yes	Yes	Yes	
		(有識者 所見)			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか。	Yes	Yes 千葉県立美術館緊急対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。また、防災避難訓練を3月6日に実施した。現在は耐震工事中のため、訓練自体が難しいが、できる限り実施し、緊急時にそなえたい。	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか。	Yes	Yes 美術団体展代表者名簿、事業参加者名簿等の個人情報は集中的に管理し、職員による館外持ち出しを厳禁している。また、保存期間後すみやかに消却処分している。	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
C 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。	Yes	Yes 職員には可能な限り各種研修会を受講できるよう積極的に奨励し、便宜を図っている。24年度はのべ18人参加した。	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見) 県民の財産を預かっているの、休館中であっても防災にかかる研修は行ってほしい。			
②県民ニーズに則した運営					
A 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか。	7.0万人 (前年度比33.6%)	156,247人(目標値比223.2%)	耐震改修工事による休館のため設定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 利用者満足度・ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査(含むアンケート調査)を行っているか。	アンケートによる調査を行う			
		(有識者 所見)			
③情報公開					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 使命・目標・計画 などの方針公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	Yes	Yes	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
	B 評価結果の公開					
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
3.施設, 設備					
①施設設備の維持・管理					
A 定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。	建築・設備・環境など定期点検を実施。	定期点検は予定通り実施。	建築・設備・環境など定期点検を実施。	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 改修・保全	改修・保全が行われているか。	改修・保全は緊急性を考慮し予算内で実施。		改修・保全は緊急性を考慮し予算内で実施。	
C 安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。				
		(有識者 所見)			
②アメニティーの向上					
A バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策, 万人に対応した受け入れ態勢がとられているか	Yes	Yes	Yes	
B アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか	Yes	Yes	Yes	
C ミュージアムショップ	商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客等が満足できるかどうか、また、アンケート調査等で来館者ニーズを把握しているか	Yes	Yes	Yes	
		(有識者 所見)			
4.財源					
①予算の確保					
A 入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうであったか	当初見込み 8,080,580円	8,716,570円 当初見込みの107.9%	耐震改修工事による休館のため設定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
B その他の収入	その他の事業収入はどうであったか	当初見込み 4,922,920円	3,261,800円 当初見込みの66.3%		
		(有識者 所見)			
②館独自の財源獲得					
A 外部助成金等の獲得	外部助成金等(含県関連財団)を獲得しているか	1件	1件 (文化庁ミュージアム活性化支援事業)	予定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
5.収集, 保存及び活用					
①資料収集					
A コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	Yes	Yes	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 寄託・寄付・購入点数	寄託・寄付・購入件数は何件・何点か	収集方針に基づく収集	購入0件、寄付5件6点	収集方針に基づく収集	【課題】25年度は、収蔵庫も耐震改修工事の対象となっているため、基本的に積極的な収集はできない。 【改善案】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②資料保存					
A 保存処理	資料の保存処理が行われているか	作品自体の保存処理はしていないが、最低限虫害などを防ぐために、薬品散布などの処理を行う	虫害の環境調査を実施し、結果を踏まえて部分的に薬品散布を実施した。	環境調査を踏まえた科学的な薬品散布を行う	【課題】展示室(団体展会場)を利用する美術団体の一部は、温湿度や虫害に対する意識が乏しい。 【改善案】耐震改修工事終了時の再オープンの際には、施設利用者に湿度、虫害の危険性等に対する理解を訴える掲示、もしくは文書を作成して周知させたい。
B 修復	資料の修復作業が行われているか	予算がないため実施予定なし	予算がないため実施予定なし	予算がないため実施予定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
C 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	①定期的な点検 ②毎日の温湿度チェック ③入出簿の記載	①定期的な点検 ②毎日の温湿度チェック ③入出簿の記載 以上3点を実施している。	①定期的な点検 ②定期的な温湿度のチェック ③入出簿の記載 ④年1～2回の大掃除	【課題】25・26年度に関しては、収蔵庫が耐震改修工事の対象になっているため、資料は別置している。ただ、工事ゾーンを通らないと保管場所へ行けないため、毎日の温湿度チェックは不可能である。 【改善案】保管場所に数台の自記式温湿度計を置き、庫内の温湿度の把握に努めるとともに、週に1度は庫内に入り、目視で温湿度チェックをする。とともに、トラップを設置し、文化財害虫等の把握に努める。
(有識者 所見)					
③資料管理					
A 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か	22年度収蔵する作品・資料	現在、研究用資料を含め3,994点を収蔵	23年度収蔵する作品・資料	【課題】耐震改修工事を実施しているため、基本的には現在収蔵している資料の管理に努め、積極的な資料の収集は行わない。 【改善案】
B 登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか	22年度収蔵する全ての資料に実施	随時行っている	23年度収蔵するすべての資料に実施	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
④資料活用					
A 貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	必要に応じての貸し出し。	実物資料は8件29点貸与した。また、画像資料については、雑誌掲載等で16件17点の申請があり、そのうち、転載等を除く12点を貸与した。	必要に応じての貸し出しを行う。また、写真のない資料については、順次、貸し出しができる体制を整える。	【課題】今年度については、耐震改修工事のため、基本的に資料の貸し出しは行わない。 【改善案】
(有識者 所見)					
⑤一般図書管理					
A 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か	24年度収蔵した図書	37冊	25年度に寄贈を受ける図書	【課題】図書購入費がなく、最新の情報入手に支障が生じている。 【改善案】
(有識者 所見)					
6.調査・研究					
①調査事業					
A 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	展覧会・収集・普及事業等に関連した調査	展覧会・収集等に関連した調査 20件	展覧会・収集・普及事業等に関連した調査	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
②外部との調査・研究					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
A 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	つながるティーチャーズバックを開発する。	小学校2校の協力を得て実験授業を実施し、鑑賞教育も行って高い効果が検証された。	鑑賞教育プログラムのホームページでの限定的公開、教師用マニュアルの作成を行う。	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
③研究成果の発表					
A 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	Yes	Yes	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 研究成果の学術的公表(館独自項目)	学会誌や館の報告書等の論文執筆を行い、発表を行っているか。	Yes	口頭発表 2件	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
7. 展示					
① 常設展示					
A 展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	17回	年度当初の計画に基づき計画的な展示替えを17回実施した	0回	【課題】25年度は耐震改修工事のため、館内での展示は一切できない。 【改善案】
B 展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	作品を台帳により定期的な確認をする	随時、台帳とデータベースにより行っている	作品を台帳により定期的な確認をする	【課題】特記事項なし 【改善案】
C 満足度	来館者が常設展示に満足しているか	アンケート調査による満足度が90%以上	すでに完了した展覧会においては、ほぼ満足の回答を得ている	アンケート調査による満足度が90%以上	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
② 企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
A 入場者情報(数・年齢・地域など)	入場者の動向把握を行っているか	アンケートにより把握	年齢、数、地域に関するアンケートを常時行っている。	アンケートにより把握	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 満足度	来館者が企画展示に満足しているか	アンケート調査による満足度が90%以上	すでに完了した展覧会においては、ほぼ満足の回答を得ている	アンケート調査による満足度が90%以上	
(有識者 所見) 平成24年度企画展「増村益城展」は格調高く、よい展示であった。入館者が少なかったのは残念である。					
③ 出前展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、または展示の要望があったか	移動美術館を1回行う	今回は3ヶ所から要望があったが、予算や過去の開催地域を勘案して1ヶ所を決定した	移動美術館を7回行う	【課題】今年度は耐震改修工事のため、館内での展示はできない。そのため、県立博物館・文化会館等で収蔵作品の展示を行うが、展示室が必ずしも美術作品向けにできていないため、見やすい展示ができない。 【改善案】現地での展示作業では、精一杯知恵を絞りたい。
B 満足度	利用者が満足しているか	アンケート調査による満足度が90%以上	アンケートを実施した結果、再度実施してほしい、常設してほしいなどの希望があり満足度は高まったと思われる	アンケート調査による満足度が90%以上	
(有識者 所見) 平成25年度に行っている「移動美術館」は好評のようだ。県民のニーズに応じて再開館後も積極的に実施するべきである。「移動美術館」の意義は、単に地方で美術展が行われたということだけでなく、行政の地域支援の側面がある。好評の意義をしっかりと受け止めて、今後の事業に活かす必要がある。					
④ 他館との合同企画による展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、併せてネットワークを活用した企画であったか	0回	24年度は耐震改修工事に伴い、年末で館を閉めたため、当館の予定と関東地区博物館協会の予定が合わず、共同企画展へは参加しなかった。	関東地区博物館協会共同企画展は隔年実施のため、25年度は実施しない予定	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 満足度	来館者が満足しているか	アンケート調査による満足度が90%以上			
(有識者 所見)					
⑤ 企画展示(入場料を変えない展示)					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか			耐震改修工事による休館のため設定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 満足度	利用者が満足しているか				
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
A 体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか	事業数(回数) ワークショップ(7) 美術館体験学習 高校生のための美術館セミナー(1) 実技講座(6) 美術館講座 ミュージアムコンサート(4)	事業数(回数) ワークショップ1(8) 美術館体験学習 1(6) 高校生のための美術館セミナー 1 実技講座 1(5) 教師のためのアートガイダンス 1 美術館講座 1 ミュージアムコンサート 5	事業数(回数) ワークショップ1(10) 実技講座1(5)	【課題】特記事項なし 【改善案】
B 体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	定員の100%	人数(充足率) ○ワークショップ計653名 ・みんなのかお・Faceあーと 36(120%) ・いろいろ・創作あーと 90(90%) ・特別企画展ワークショップ・じぶんちずバッグ 64(213%) ・特別企画展ワークショップ・キラキラ・万華鏡 132(220%) ・100人ワークショップ<プレ> 6(-) ・100人ワークショップ<船> 96(-) ・モノルール・駅であーと 38(95%) ・わくわく創作あーと 191(96%) ○美術館体験学習 78(-) ○高校生のための美術館セミナー 20(-) ○実技講座計 68(-) ・陶芸基礎20(80%) ・陶芸応用17(85%) ・ホリデーアートコラグラフ13(65%) ・ホリデーアートシルバークレイ8(40%) ・金工講座10(67%) ○教員研修 6(77%) ○コンサート ・千葉シニアアンサンブル 207(103%) ・高校生によるサマーコンサート 480(240%) ・ニューフィル千葉 176(89%)	定員の100%	【課題】気軽にできるワークショップと美術館独自の強いワークショップに人気が集中し、企画展示・収蔵作品展示関連のワークショップは応募者が少ない傾向がある。 【改善案】
C 満足度	参加者は満足しているか	アンケート調査による満足度が91%以上	ワークショップ: 86-90%9件/96-99%36件/100%125件 実技講座:20件/96-99% 教員研修:不明 各コンサート:94%	アンケート調査による満足度が91%以上	
		(有識者 所見) 県立美術館で実技講座(陶芸・金工)など高度な創作ができるのは大変良い。			
②講演会					
A 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか	1回	1回		【課題】特記事項なし 【改善案】
B 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か	80人	59名		
C 満足度	参加者は満足しているか	アンケートによる調査を行う	満足80%以上		
		(有識者 所見)			
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A 電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか	Yes	館の収集・展示に関する問い合わせに対して回答し、当館に関わらない問い合わせに対しては他の専門館、研究者、作家等を紹介した。	Yes	【課題】平成25年度は基本的に行わない。 【改善案】
		(有識者 所見)			
②メディアへの情報発信					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	発信280件,掲載200件	発信156件、掲載141件	前年度と同等またはそれ以上	【課題】特記事項なし 【改善案】
			(有識者 所見) 「移動美術館」、「夢つくり隊」、また「夢つくり隊」のキッズデザイン賞・グッドデザイン賞受賞の報道など、平成25年度はメディア(新聞・ラジオ放送)露出が多い。県民へのPRはうまくいっている。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
③ホームページによる広報					
A ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数ほどのくらいか、資料検索システムの登録件数ほどのくらいか	更新52回 アクセス90,000回	更新42回、アクセス80,805回 21年度末の大幅なホームページリニューアルを実施した結果、ホームページの情報を基にした利用者が増えたほか、雑誌社等からの取材件数も増加した。アクセス数に表れる以上の質的向上が認められる。	更新52回 アクセス90,000回	【課題】休館中の情報発信の工夫 【改善案】
		(有識者 所見) 県立美術館・博物館といえども、県内のみでの発信にとどまらず、隣接県外(東京都・茨城県・埼玉県)への情報発信を行うべきである。			
④印刷物の刊行					
A 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	12回	19回	12回	【課題】印刷物を作成する予算がきわめて少ない。 【改善案】
		(有識者 所見)			
⑤図書室の公開					
A 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	Yes	Yes データベースに従い、配架の整理を終了している。開室はボランティアが常駐する午後のみであるが、午前中も利用者の要望に従い職員が対応した。		【課題】25年度は開室しない。 【改善案】
		(有識者 所見)			
10. 県民参画					
①県民との協働					
A ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	Yes	Yes 情報資料室はボランティアにより開館日全日利用が実現している。ワークショップもボランティアにより円滑に運営された。	Yes	【課題】情報資料室は25年度は開室しない。 【改善案】休館中にワークショップボランティアの活用・育成を継続し、ボランティアシステム全体の再構築(募集・管理・研修)を行い再開館に備える。
B 県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	情報収集システムの十分な構築	システム構築を目指したが、不十分なままである。	情報収集システムの十分な構築	【課題】特記事項なし 【改善案】
C 友の会	友の会活動が効果的に行われているか。	Yes	Yes 友の会活動が自主講座等活発に行われている。 友の会会員数 336人(H25年3月末現在) 友の会との連携事業1件 総参加者数 258人	会員数の増加と活動のさらなる活性化	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②NPO・外部機関との連携・調査					
A NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	教育関連の研究会との連携を実施予定	教員研究会に参加、館情報の提供や博学連携事業の発表を行った。	教育関連の研究会との連携を実施予定	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
11. 人材育成					
①博物館実習					
A 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか	Yes	Yes	耐震改修工事による休館のため設定なし	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②教員等研修					
A 教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	2回, 100人	2回, 6人	震災後、夏季節電対策の一環として、一括募集を実施していない。随時受け入れの方法で少人数参加を受け入れた。	【課題】これまでの教員研修では、美術館利用や連携事業の活性化に結びつく内容になっていなかった。 【改善案】今後の研修では、鑑賞・創作など博学連携、美術教育に関する事例発表や討論を取り入れた実施方法を検討する。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
			(有識者 所見) 教員に対する研修は、美術館利用促進に有効である。再開館後の教員に対する研修について、広報・募集等を工夫すること。		
③職場体験学習・インターンシップ					
A 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	15校, 50人	10校20人		【課題】特記事項なし 【改善案】
			(有識者 所見)		

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立美術館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
④ボランティア育成					
A ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	必要に応じて実施する。	ワークショップサポーターのための研修を実施	必要に応じて実施する。	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
12. 県民等からの依頼による学習支援					
①常設展示・企画展示等の活用					
A 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	準定期的なギャラリートークの実施 要望に応じたガイドダンスの実施(前年比100%)	要望に応じて実施 55回1,620人(前年比126%)	継続実施	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
②館内における講座・講演会活動					
A 講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	Yes	なし	Yes	【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
③学校連携事業					
A 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	前年比120%	17校924人(前年比71%、69%)		【課題】】H25は受け入れ実施しない。休館中の継続広報が課題である。 【改善案】
B 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	Yes	9校11回568人		【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
④外部依頼講師(大学, 行政研修会など他組織)					
A 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか	2回 2人	2回 2人 放送大学面接授業の実施		【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
13. 地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A 社会教育機関・地域住民等との連携	連携事業を行っているか	「美浜アートフェスティバル」一連の事業としてワークショップ、展覧会を実施する。	・美浜アートフェスティバル(千葉再生リサーチ, 千葉市民ギャラリーいなげ, 千葉大学) ・成田アート博覧会(成田市仲町商店街, 成田市内中高) ・日赤キッズクロスプロジェクト「夢づくり隊」(日赤・地元教育委員会)	H24と同程度の活動を維持する。	【課題】新たな事業予算が獲得できないため、実施できる事業に限界がある。 【改善案】連携者による手作り感を特徴として前面にだして行く。
(有識者 所見) 「夢づくり隊」などは、県外での実施により、千葉県から外へ飛び出したことは大きな意義がある。					
②観光資源としての活用					
A 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか		1団体25人		【課題】近隣県の美術サークル、美術館友の会の利用はあるが、一般団体の観光目的の来館はほとんどない。美術館コレクションの観光事業への広報が必要。 【改善案】
B 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか	団体展 2	人数は不詳 中国系美術団体、韓国系美術団体の展覧会があるので、外国人の無料ゾーンへの入館者はかなりあると思われるが、受付なしで入館できるため正確に把握できない。		【課題】特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
A 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか	使命の明文化掲示	Yes 千葉県立博物館及び千葉県立中央博物館(含分館)の使命は、展示室受付に掲示するとともに、ホームページで公開している。その他、概要や年報にも掲載している。	継続して周知を図る	【課題】特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
A 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。	中長期計画の策定と遂行	○年次計画はあるか→Yes ○事業等の優先順位→Yes(年次計画による優先順位) ○実施スケジュールによる予算要求→Yes(年次計画による要求) ○事業実施に至っているか→Yes(年次計画に沿った運営を行っている)	継続実施	【課題】目標を着実に達成する。 【改善案】状況に応じて年次計画の見直しを行う。
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
A 自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか	自己評価の実施	Yes 事業活動の結果を年次報告(評価調査)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。	継続実施	【課題】特になし。 【改善案】
B 外部評価	外部評価委員会による外部評価を行っているか	外部評価の実施	Yes 平成24年度は大多喜城分館企画展「上総の仏教美術」	継続実施	
C 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか	評価結果の反映	Yes 事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度をその内容、数値等で検証し、次年度以降の計画を見直すこととしている。	継続実施	
D 評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。	評価の手法の見直し	Yes 評価検討会、外部評価委員会において、常時、見直しを図っている。	継続実施	
		(有識者 所見)			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか。	組織的な危機管理体制の確立と運用	Yes「中央博物館緊急対応マニュアル」を整備し、職員に周知すると共に、毎年、訓練を実施している。 <H24年度実施> ・5月10日・11月28日-緊急伝達 ・3月12日-防災避難訓練	継続実施	【課題】災害発生時における確実、適切な対応。 【改善案】マニュアルに沿った訓練を繰り返し実施することにより、各職員の危機意識の高揚と緊急時に担うべき役割の周知徹底を図る。
B 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか。	個人情報の適正管理	Yes 行事等の参加者の氏名等の個人情報は、事後速やかに、もしくは保存期間をまって消却処分している。本人の承諾を得た名簿については保管し、行事案内などをダイレクトにメールする際に利用。	継続実施	【課題】電子データの情報流出防止 【改善案】各職員が保存している行事参加社等の個人情報について、引き続き管理の徹底を図る。
C 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。	職員研修を受講するための環境整備	Yes 外部より通知された各種研修会等の案内は、職員に回覧し、希望する職員には、可能な限り受講・参加の機会を与えている。	継続実施	【課題】研修の成果を館運営に反映させる。 【改善案】研修参加者は参加報告を適切な時期及び内容で行うとともに、研修内容を関係職員間で共有する。併せて、研修成果の当館運営への反映について、適切な部署で討議する。
		(有識者 所見) 大多喜城分館の配置人数が少なく、リスクマネジメント上、問題があるのではないかと。しっかりとした本館の支援体制を構築するべきである。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②県民ニーズに則した運営					
A 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか。	前年度比で、 本館 110% 大和根 105% 大多喜城 107%	○利用者数に関して、総人数、個人、団体等の分類で算出(括弧内は前年度) [本館]入館者:193,443(174,516:111%) ●達成 ・個人:182,860人(160,909人) ・団体:213/10,583人(276/13,607) ・行事参加者:12,890人(14,884人) ・HPアクセス:280,565件(119,923件) [大和根]入館者:29,046(25,166:115%) ●達成 ・個人:10,375人(10,714人) ・団体:108/18,671人(96/14,452) ・行事参加者:10,678人(897人) ・HPアクセス:12,909件(13,862件) [大多喜]入館者:82,801(77,494:107%) ●達成 ・個人:76,358人(70,871) ・団体:187/6,443人(201/6,623) ・行事参加者:3,672人(398人) ・HPアクセス:30,628件(31,544件)	前年度比で、 本館 110% 大和根 100% 大多喜城 107%	【課題】平成27年度目標値の達成に向けて、本館と大多喜城においては入館者数の段階的向上 H27総入場者目標値 ・本館 250,000 ・大和根 23,000(達成済み) ・大多喜 96,000 【改善案】学校等の団体に充実したサービスを提供し、団体利用者数の高位安定化と新規開拓に努め、常設展示利用者のベースアップを図る。
B 利用者満足度・ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査(含むアンケート調査)を行っているか。	利用者満足度に関する調査の実施	Yes(利用者満足度をアンケート調査) ・常設展示室に自由記載方式のアンケート用紙を常備しており、意見等については、適時、館内周知し、回答の必要な件に関しては速やかに回答している。 ・企画展開催期間中は、展示会場内にアンケート用紙を設置している。H24年度の企画展「シカとカモシカ」におけるアンケート回収数は、259件であった。	継続実施	【課題】展示会における指摘事項の担当者間での継承 【改善策】展示会アンケートでの観覧者からの指摘事項(よしあしにかかわらず)については、反省会を開催し、当該担当者から次回担当者へ確実に引き継ぎ、改善につなげる。
(有識者 所見)					
③情報公開					
A 使命・目標・計画などの方針公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	情報公開による透明性の確保	Yes 使命・目標・評価結果はウェブで公開している。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
B 評価結果の公開					
(有識者 所見)					
3.施設、設備					
①施設設備の維持・管理					
A 定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。	法令を遵守した適正な管理	Yes 施設設備については、毎年、保守点検をおこなっている。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
B 改修・保全	改修・保全が行われているか。	改修計画の策定と計画的改修の実施	Yes 〈改修〉H24本館生態園の木塀改修 〈計画〉H27～大多喜城の耐震改修 ・軽微な損傷については、常駐する設備維持管理の委託業者によって、その都度保守を行っている。	継続実施	【課題】老朽化した施設・設備の大修繕・大改修 【改善案】施設の老朽化程度を踏まえ、中長期の視点に立って主務課との協議を開始する。
C 安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。	法令を遵守した適正な管理	Yes	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②アメニティーの向上					
A バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策, 万人に対応した受け入れ態勢がとられているか	非バリアフリー施設・設備の改善	Yes(本館・大利根) No(大多喜) 大多喜城分館には、エレベーターが無く、車椅子利用者等の入館には、職員による介助で対応している。	継続実施 (大多喜城分館のバリアフリー化については、進行中)	【課題】 大多喜城分館へのエレベータ設置 【改善案】 耐震補強工事の際に合わせて実施する。
B アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか	サインの見直しと改善	○交通関連のサインの適切な配置→No (道路標識の増設が必要) ○アクセス案内が迅速かつ分かりやすく行われているか→Yes (電話・ネット等では適切)	継続実施 (路上サイン設置については、関係部局への働きかけを継続)	【課題】 車で来館する利用者向けの案内表示 【改善案】 道路標識の増設について関係部局への働きかけを継続して行うとともに、引き続き、インターネット上でのわかりやすいアクセス情報の提供に努める。
C ミュージアムショップ	商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客等が満足できるかどうか、また、アンケート調査等で来館者ニーズを把握しているか	ミュージアムショップの充実	Yes 売店の利用者には好評である。		【課題】 利用者ニーズの把握と即応性 【改善案】 流行・季節・館事業に応じた柔軟な品揃えを館から友の会に要請、提案する。また、職員が館オリジナルのミュージアムグッズを検討・開発し、その製作と販売を友の会に提案する。
(有識者 所見)					
4.財源					
①予算の確保					
A 入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうであったか	当初収入計画(円) 本館 15,225,000 大利根 641,000 大多喜 7,838,000	○入場料収入 実収入(計画達成率%) ・本館 12,140,900円(80%) ・大利根 457,980円(71%) ・大多喜 6,607,680円(84%)	前年度並	【課題】 収入減による特定財源予算の大幅な年度末減額措置を防ぐ。 【改善案】 企画展等の事業については、歳入予算計画との大きなずれが生じないよう、収入達成に向け努力する。とくに本館については、年度間の収入額に大きな変動が起きないよう努める。
B その他の収入	その他の事業収入はどうであったか		○雑収入計711,680円(前年度比129%) 雑収入内訳: 〈売店・自動販売機等電気料金〉 ・本館580,664 ・大利根11,259/大多喜60,747 〈コピーサービス〉:本館15,310 〈傷害保険本人負担〉 ・本館39,900/大利根1,500/大多喜2,300	達成率:100%	【課題】 新たな収入源を確保し、特定財源の拡大を図る。 【改善案】 主務課と協議し、物品等の直接販売の道を探る。
(有識者 所見)					
②館独自の財源獲得					
A 外部助成金等の獲得	外部助成金等(含県関連財団)を獲得しているか	独自財源の獲得	○外部資金の申請→Yes ○外部資金の獲得→Yes (13件 20,493,000円) 〈内訳〉 ・文科省科研費 10件 18,500,000円 ・その他の研究費 2件 1,003,000円 ・展示会補助 1件 990,000円	継続実施と採択増加を目指す	【課題】 外部資金獲得を博物館の恒常的な機能向上につなげる。 【改善案】 間接経費が認められる文部省科学研究費につき、積極的に応募・申請するよう職員に促す。
(有識者 所見)					
5.収集, 保存及び活用					
①資料収集					
A コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	法令、内規を遵守した適正な収集活動の実施	Yes 常に資料収集に関する法令等の情報を収集し、内規の見直しを行い、法令などの遵守に勤めている。	継続実施	【課題】 収集資料の内容が周知されにくい 【改善案】 受贈の際には資料審査委員会を開催し、法令等の遵守を確認する

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 寄託・寄付・購入 点数	寄託・寄付・購入件数 は何件・何点か		[寄贈] 地学:11点/動物:2点/生態環 境:415点 [購入] 図書:55点/雑誌:329点		【課題】 予算不足 【改善案】 購入については、難しい 状況にある。寄託、寄附については 職員個人の徳により収集を進める余 地がある。
		(有識者 所見)				

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②資料保存					
A 保存処理	資料の保存処理が行われているか	資料の状態に応じた適正な保存処理の実施	○保存処理の適切な実施→Yes ○保存処理の予算要求→Yes 収集から収蔵までの資料の保存処理は各資料系ごとに処理過程及び所要時間は異なるが、基本的に、収集から収蔵まで研究員が責任をもって処理している。ただし燻蒸釜による標本燻蒸については、資料管理研究科が実施。	継続実施 予算の確保	【課題】燻蒸に頼らない資料の防虫・防かび 【改善案】IPMの徹底
B 修復	資料の修復作業が行われているか	資料の状態に応じた適正な修復作業の実施	○修復の適切な実施→Yes ○修復作業の予算要求→Yes 修復が必要な資料の担当は、各担当者が随時手作業で行っているが、展示資料も含め大規模な資料修復の予算は獲得できていない。	継続実施 予算の確保	【課題】館内部での修復技術者の確保と養成 【改善案】当面は、外注に必要な予算要求を継続する。
C 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	収蔵庫及び収蔵資料の定期的な状態把握と状況に応じた対処	○定期的な維持管理→Yes ○収蔵庫の温湿度管理は適切か→Yes ○収蔵庫の入出者等の管理→Yes 収蔵資料の維持管理は、各担当者が適宜行っている。また、収蔵庫の環境管理は、資料管理研究科と設備管理委託会社により、適宜行うとともに、職員により定期的に収蔵庫の清掃を行っている。収蔵庫の出入りは資料毎の管理班員に限っており、部外者の出入りにも必ず職員が立ち会うようにしている。	継続実施	【課題】老朽化した本館空調設備の改修 【改善案】博物館資料を積極的に活用し、県民資産としての博物館資料の認知度を高め、中長期の視点に立った空調設備の改修計画について、主務課との協議を開始する。
		(有識者 所見) 大多喜城分館の収蔵施設は、定期的な燻蒸等さらなる適正な維持管理に努めること。			
③資料管理					
A 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か		○台帳登録点数 本館815,113点(前年度733,588点) 大利根3,698点(前年度3,698点) 大多喜1,913点(前年度1,922点)	県費の確保と外部資金の獲得	【課題】収蔵備品、消耗品購入予算の欠乏、不足、マンパワーの不足 【改善案】備品費、消耗品費、賃金の必要性を強くアピールし、県費による予算を確保する。外部資金の獲得、個人の研究助成金などの獲得に努める
B 登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか	収集資料の台帳登録による管理	○収蔵資料の管理→Yes 登録資料は、紙ベースの台帳と情報システムによる電子データで管理している。	継続実施	【課題】未整理資料の蓄積 【改善案】整理の遅れている分野について重点的に整理を進める
		(有識者 所見)			
④資料活用					
A 貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	用途、扱い等、資料の安全性確保した上での適正な貸し出しの実施	○要望に応じた資料の貸出→Yes <件数内訳>(デジタルの内数) ・本館 87件1,800点(29件763点) ・大利根25件1,319点(9件75点) ・大多喜34件94点(28件37点) 資料貸し出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。 <前年度>(デジタルの内数) ・本館 81件154点(37件154点) ・大利根 22件1,540点(8件8点) ・大多喜 48件161点(38件38点)		【課題】職員減、利用件数増加による業務量の増加。 【改善案】 (1)事務処理の効率化 (2)当館ウェブサイトにおける、利用手続きの周知。 (3)情報システムに画像付きの登録件数を増やす。
		(有識者 所見)			
⑤一般図書管理					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か		<p>○収蔵図書冊数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書:47,187冊(1,272冊増) ・雑誌:74,130冊(3,237冊増) ・雑誌タイトル数:5,014誌(70誌増) <p>年間の増加冊数の図書は、ほとんどが寄贈・交換(博物館刊行物・調査報告書・研究紀要など)によるもの。雑誌は購入が1割。</p>		<p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)図書の利用促進(目録公開) (2)保管場所の確保 (3)新刊図書の購入 (4)電動書架の老朽化 <p>【改善案】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)作業時間の確保・スタッフ増員 (2)書架増設 (3)図書備品費の復活 (4)書架基盤交換
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
6.調査・研究					
①調査事業					
A 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	使命に基づいた調査研究活動の実施	○調査・研究の計画的実施→Yes (研究課題数87件) ・重点研究課題 3件 ・地域研究課題 47件 ・普遍研究課題 37件	継続実施	【課題】研究時間および研究予算の確保 【改善案】他の業務とのバランスを考慮しつつ、業務の効率化を進める。外部研究資金の獲得に努める。
(有識者 所見)					
②外部との調査・研究					
A 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	使命に基づいた調査研究活動における外部団体との共同	○外部団体等と共同の調査研究→Yes(6件) <共同研究の相手先> 鹿児島大学、熊本大学、宮崎大学、東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林、国立環境研究所、国立歴史民俗博物館	継続実施	【課題】効果的な連携研究の推進 【改善案】他機関の研究者と日常的な情報交換に努める。
(有識者 所見)					
③研究成果の発表					
A 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	研究成果を反映させた展示活動の実施	○研究成果の展示への反映→Yes (企画数:31件) ・本館 22件 ・大利根 4件 ・大多喜 5件	反映の充実を目指す	【課題】目に見える形での研究成果の一層の還元 【改善案】中央博物館で行われている先進的な研究や千葉県に根ざした地域研究など豊富で多様な研究成果を、広く県民の興味を引き付けるような展示手法を工夫して積極的に展示する。それにより博物館における専門研究員の必要性を県民に理解してもらう。
B 研究成果の学術的公表(館独自項目)	学会誌や館の報告書等の論文執筆を行い、発表を行っているか。	積極的な研究成果の公表	○論文による研究成果の公表→Yes ・学術論文 59件 ・学術報告書 36件 ・普及書 122件 ・口頭発表 89件	充実を目指す	【課題】研究成果の積極的な学術的公表による外部研究資金採択率の向上 【改善案】科学研究費等の研究助成金を得た場合、高い評価を得られる方法で公表する。
(有識者 所見)					
7.展示					
①常設展示					
A 展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	計画的な展示更新の実施	○展示替計画の有無→Yes ○計画通りの展示替→Yes(14回22点)	継続実施	【課題】展示更新の成果を入場者増の結び付ける 【改善案】展示更新の効果的な広報、展示解説等のサービスの実施。
B 展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	計画的な保守の実施	○保守・管理計画の有無→Yes ○計画通りの実施→Yes ○保守・管理のための予算要求→Yes ○展示中の事故(来館者等)→Yes(無)	継続実施 予算確保を目指す	【課題】展示設備及び展示情報の老朽化・陳腐化への対応 【改善案】利用者の安全性と快適性を確保するため、基本的な展示設備・備品の修繕予算を長期的な視点に立って要求する。同時に、予算をかけない情報更新の手法も検討する。
C 満足度	来館者が常設展示に満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○常設展示においては、常時アンケート調査を実施しており、入館者の意見を聴取している。 ○集計の結果、満足度は高い。 ○回答の希望者においては、適時、文書及び電話等において回答している。	満足度アップを目指す	【課題】利用者満足度の向上とリピーター増の結び付け 【改善案】本館における約7000点の常設展示物を最大限有効活用するため、学校の学年・教科別の解説内容の変更、市町村に関連する展示品リストなど、利用者層に配慮したきめの細かい展示サービスを提供し、利用促進を図る。
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
A 入場者情報(数・年齢・地域など)	入場者の動向把握を行っているか	アンケート等の実施・他館との比較等	○入場者情報の把握→Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向を分析を行っている。	継続実施	【課題】アンケート結果を次期以降の展示計画に反映 【改善案】アンケート結果から県民の興味・嗜好性の動向を分析するとともに、大河ドラマなど各種ブームに配慮した展示企画を立案し、利用者増を図るとともに、利用者の満足度を高める。また、アンケートの設問についても、意図する情報が得られるように再検討する。
B 満足度	来館者が企画展示に満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	「シカとカモシカ」 ・テーマ設定:とても良い・良い=96.0% ・わかりやすさ:ちょうど良い=72.6% ・全体の満足度:とても良い・良い=94.3% 「ティラノサウルス」 ・テーマ設定:とても良い・良い=97.4% ・わかりやすさ:ちょうど良い=73.8% ・全体の満足度:とても良い・良い=92.3% 「水郷を旅する人々Ⅱ」(大利根) ・展示の満足度:満足95% ・見やすさ:見やすかった95% ・わかりやすさ:わかりやすかった80% 「上総の仏教美術」(大多喜) ・展示の満足度:満足69% ・わかりやすさ:わかりやすかった79%	各項目が概ね80%以上	
		(有識者 所見) 本館との連携を深め、大多喜城分館の企画展の満足度を高める工夫をされたい。			
③出前展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、または展示の要望があったか		○何回展示企画を行い実施したか。 ・本館 6件 (清和地区文化祭(山のFM)・県民プラザにおける屏風展・芽ばえ展) ・大利根 22件(学校向け移動展)	継続実施	【課題】県立博物館の存在意義を県内各地に周知 【改善案】出前のニーズを高めるため、積極的な広報活動に努めるとともに、館内事業との連動性を高め、入館者増にもつなげる。
B 満足度	利用者が満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○概ね満足してもらっている。 アンケートは一部でしか実施していないが、上記の結果を得ている。	満足度アップを目指す	
		(有識者 所見)			
④他館との合同企画による展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、併せてネットワークを活用した企画であったか		○展示企画数:3回 ○ネットワークの活用→Yes ①科博コラボ・ミュージアムin千葉「恐竜アロサウルスとその時代の生き物たち」(国立科学博物館・全国科学博物館振興財団・千葉県博物館協会) ②房総発掘ものがたり(千葉県教育振興財団) ③水郷を旅する人々(関東地区博物館協会)		【課題】館種を超えた広範な連携関係の確立 【改善案】本館については県内最大規模の総合博物館であること、大利根分館、大多喜城分館については、それぞれの地域における中核的な博物館であるという利点を活かし、県内の小規模館、文書館、図書館等、他の公共施設の状況に応じた連携展示企画を立案し、提案する。
B 満足度	来館者が満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○アンケートは出土遺物巡回展のみで実施 アンケート結果(有効回答180通) ・満足度:面白かった以上 84% ・難易度:解り易い以上 78%	アンケートによるニーズ把握を行う。	
		(有識者 所見)			
⑤企画展示(入場料を変更しない展示)					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか		○展示企画数31回 ・本館22件/大利根4件/大多喜5件		【課題】速報性の高い企画展示の実施。成功・不成功の波を小さくし、入場者取り込みの定量的な確保

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 満足度	利用者が満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○一定規模以上の展示(4展示)についてアンケートを実施しており、各展示とも、満足度は、おおむね好評との結果を得ている。 〈アンケート実施展示〉 ・シカとカモシカ ・ティラノサウルス ・ナッツ&ベリー	各項目80%以上	<small>券売収入の安定的な確保</small> 【改善案】 過去に成功した企画のバージョンアップ版の再実施を検討するとともに、不成功に終わった展示会の問題点を改良し、再チャレンジすることを検討する。
		(有識者 所見)				

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標指標	当該項目に関する課題と改善案
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
A 体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか	前年度並みの回数の実施	主催行事計 543件(前年度475件) [本館] 364件 ・講座・観察会・展示関連行事・シンポジウム・講演会:182件 ・ミュージアムトーク・展示解説:182件 ・主催体験プログラム等(定期的実施) 三島小学校博物館(毎金),中央博調査隊(随時),森の調査隊(週末・夏休),とりの声キャッチ名人(毎土) [大利根] 84件 ・講座・子供教室・団体解説・いしづみ調査隊等 [大多喜] 95件 ・講座・体験教室・観察会・歴史教室・展示解説等	前年度並み	【課題】 主催行事件数が、週末日数や会場確保、事業効率の点からほぼ頭打ちにある中で、質的な改善。 【改善案】 当館の使命という点で、間口の広く敷居の低い親子向けなどの行事と、当館の特色や専門性を発信する行事の両者をバランスよく企画し、質的な改善を図っていく。
B 体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	定員充足80%以上	○本館12,890人(充足率平均 82%) ○大利根10,678人(充足率平均 93%) ○大多喜3,672人(充足率平均 94%) ※充足率は、有定員事業に限定して算出	定員の充足率の維持	【課題】 子ども向けイベントの充足率が高く、専門性のある大人向けの講座の充足率が低い傾向があり、事業の改良と専門性の維持との調整やメリハリ付与が必要。 【改善案】 利用者ニーズを考慮した事業内容と広報戦略等の改善を図る一方で、当館の専門性に根ざす講座や研究成果の還元の上で意義のある行事は充足率にかかわらず継続する。
C 満足度	参加者は満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○アンケートは実施せず 教育普及事業に関してはアンケート調査は実施していないが、どの講座等においても、大方定員に達しており、観察会等で人気のある講座は定員を大きく超え、抽選となるケースが多々ある。また、定員を設定していない自由参加の事業についても、1日100人を超える参加者があることから、満足度は高いと考えている。	各項目80%以上	
(有識者 所見)					
②講演会					
A 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか		8-①-Aに集約表記	前年度並み	【課題】 参加者数が低迷する事業の改良。 【改善案】 事業内容・広報戦略等を改善するとともに、会場や定員設定の適正化を図る。
B 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か	定員充足80%以上	8-①-Bに集約表記	前年度並み	
C 満足度	参加者は満足しているか	アンケート等による把握 満足80%以上	○一部事業のみアンケートを実施 概ね満足と考えている。	満足度アップを目指す	
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標指標	当該項目に関する課題と改善案
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A 電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか	誠実な対応	Yes 〈学習情報センターでの対応実績〉 ・質問対応:184件+学情以外942件 ・コピーサービス利用者:74件922枚 ・書庫資料閲覧請求:12件59冊 〈電話等での問合せ対応〉約1,150件	継続実施	【課題】質問対応の意義を広く県民にアピール 【改善案】問合せ実績をQ&Aとして公表するなど、広報活動に努める。
(有識者 所見)					
②メディアへの情報発信					
A 発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	積極的、効果的な情報発信	○館情報の定期的な発信→Yes ・170件(約768回) ○協力要請への対応→Yes ・83件 ・本館58件/大利根6件/大多喜19件 ○掲載・放映の増加→Yes ・件数199件 情報発信は、簡潔で宣伝効果の高い広報資料を整え定期的実施している。24年度より、都内開催の在京メディアレジャー記者会での情報発信や県内ミニコミ誌、専門系雑誌など従来とは異なる提供先を増やす努力をしたため定期的な発信件数が急増した。各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応している。専門分野における問い合わせ等はかなり多い。テレビCMや県のイベントへも積極的に協力した。	前年度並み	【課題】広報効果の高い主要メディアの文化芸術欄・科学欄への常時掲載と共に、地域に密着した情報誌への掲載。情報提供の時期と企画の進捗状況のすり合わせ。役務費の確保。 【改善案】魅力的な事業の企画立案とメディアへの効果的な情報発信のための館内努力。情報提供に係る役務費を確実に確保する。
(有識者 所見)					
③ホームページによる広報					
A ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数はどのくらいか、資料検索システムの登録件数はどのくらいか	アクセス数の増加(システムリニューアル後の効果として)	○定期的な更新→Yes ・本館 100回(前年度201回) ・大利根 12回(10回) ・大多喜 12回(10回) ○アクセス数 ・本館 280,565件(112,923件) ・大利根 12,909件(13,862件) ・大多喜 30,628件(31,544件) ○システム登録点数 ・本館 156,374点(135,733点) ・大利根 2,047点(2,048点) ・大多喜 1,025点(1,030点)	両分館に関して、アクセス数の増加	【課題】分館のHPアクセス数の増加 【改善案】詳細なイベント情報をHPに掲載することにより、HPアクセスの増加及び来館者数の増加を図る。
(有識者 所見) 情報更新の頻度を上げ、アクセス件数を増やす工夫をされたい。					
④印刷物の刊行					
A 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	効果的な印刷物の作成と配布	○印刷物による広報活動→Yes 32種類(既存の増刷は除く) ・本館 20種類 ・大利根7種類 ・大多喜5種類 ○時期は適切か→ Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指しているが、一部は年度末ギリギリとなってしまう。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。	継続実施	【課題】印刷費の恒常的な不足への対応 【改善案】一部の印刷物はウェブページ上からPDFをダウンロードできるようにする。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
		(有識者 所見)			
⑤図書室の公開					
A 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	利用者の増加	Yes 無料ゾーンの図書閲覧コーナーに図鑑・一般向けの図書を配架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、書庫の専門図書は希望があれば職員が出納し、閲覧コーナーでの閲覧が可能である。	継続実施	【課題】図書閲覧コーナーの存在の周知 【改善案】図書閲覧コーナーの存在や館のレファレンスサービスについて、ウェブなども活用して県民への周知に努める。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	ボランティアの有効活用と活動の場の増大	Yes [本館](展示室, 生態園, 資料整理, イベント, 研究ボランティア等7類型) ・人数: 189人(H25.3) ・日数: 2,073人日 [大多喜城分館](体験教室) ・人数: 12人(H25.3) ・日数: 101人日	継続実施	【課題】 昨年度より50人以上増加した。さらに登録者数を増やし、生涯学習の場として活用してもらおう。 【改善案】 すべての業務について、ボランティア参画の可能性を検討する。
B 県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	情報提供の受け入れと活用	Yes 当館では、個々の職員レベルで県民との双方向の交流が日常的になされており、実際、県民からの情報提供と大学との連携が元になって昨年度、植物の新種(イスマスズカケ)発見がなされるなど、県民からの情報が生かされている。	継続実施	【課題】 特記事項なし 【改善案】
C 友の会	友の会活動が効果的に行われているか。	友の会活動の支援	Yes ・会員数: 430人(H25年2月末現在) ・行事: 36回(内14回に館員を講師派遣) ・館との連携行事: 20回 ・企画・特別展でクイズ連携実施: 46回(会期中毎週末) ・友の会ニュース発行: 3回(毎号に複数館員が寄稿)	継続実施	【課題】 会員数が前年度に比して80名以上減っており、役員の高齢化も進んでいる。 【改善案】 友の会との密なコミュニケーションの中での効果的な支援策の検討。
		(有識者 所見) ボランティアは現在展示解説等多くの分野に分かれて活動しているが、今後は専門的知識をもった人々を募り、館職員でカバーできない分野を補完していただけたらどうか。			
② NPO・外部機関との連携・調査					
A NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	効果的な連携事業の実施	Yes(本館のみ) ・市民団体・NPO等との連携事業 58件 ・学会研究会等委員・役員 76件	継続実施	【課題】 特記事項なし 【改善案】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
11.人材育成					
①博物館実習					
A 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか	前年度並みの実習の実施	Yes 24名(14校)9日間(自宅研修1日含む) ・実施場所:本館 ・うち2名は大多喜城分館で4日間、別の2名は海の博物館で4日間実習	継続実施	【課題】人数が多すぎて、時間的・スペース的に行き届いた指導が必ずしもできない。 【改善案】人数を20名程度に抑えつつ、講義形式の授業を減らす一方、展示解説実技など自ら考える実習プログラムを増やす。
(有識者 所見)					
②教員等研修					
A 教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	前年度並みの研修の実施	Yes(21件310人) ・本館 20件 290人 ・大多喜城分館 1件 20人	継続実施	【課題】単なる教員研修ではなく、博物館を有効活用できる教員を増やすような研修機会の企画 【改善案】博物館利用研修会等の継続的な開催や、教員団体来館時の解説会の設定、総合教育センターと連携した博物館での教員研修プログラムの設定をおこなう。
(有識者 所見)					
③職場体験学習・インターンシップ					
A 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	前年度並みの受け入れ	Yes(24件67人) ・本館/職場体験(中学生):23件64人 ・大多喜/職場体験(小学生):1件3人	前年度並み	【課題】職場体験は希望の时期的集中などもあって応じきれない一方、インターンシップは募集を出しても希望者がほとんどいない状況。 【改善案】館と学校・生徒の双方にとってメリットを生む職場体験・インターンシップ内容への改善。
(有識者 所見)					
④ボランティア育成					
A ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	効果的な研修の実施	Yes 研修会:5回(85人参加) 展示会にあわせた展示解説、図書室利用に関する研修会を行っている他、各活動毎に担当職員による研修を随時行っている。新人ボランティアについては、博物館概要、関係施設、展示についての研修も行っている。	継続実施	【課題】ボランティアの士気の維持向上 【改善案】展示ボランティアと職員の見聞交換会などにより、ボランティアが気付いた博物館運営の問題点等を意見として汲みあげる仕組みを構築する。他の博物館のボランティアとの交流も進める。
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
12. 県民等からの依頼による学習支援					
① 常設展示・企画展示等の活用					
A 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	要望に応じた解説の実施	Yes<依頼を受けて行った団体解説> [本館] ・企画展等解説 46件 878人 ・博物館学習対応 11件 744人 [大利根] 50件 9,483人 [大多喜] 55件 2,387人	前年度並み	【課題】 外部からの依頼へのきめの細かい対応 【改善案】 学校団体には、来館時に、単なる見学ではないオーダーメイドの学習プログラム(博物館学習)を提供できる体制をさらに進める。
(有識者 所見)					
② 館内における講座・講演会活動					
A 講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	要望に応じた講座等の実施	Yes ・本館(26件745人)/大利根(2件/58人)/ 大多喜(9件/153人)	前年度並み	【課題】 特記事項なし 【改善案】
(有識者 所見)					
③ 学校連携事業					
A 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	前年度並みの受け入れ	Yes(225校20,491人) ・本館 142校 7,821人 ・大利根 67校 11,999人 ・大多喜 16校 671人	前年度並み	【課題】 学校が校外に出られる時間が減少する中での学校団体の利用の維持・拡大(特に本館) 【改善案】 教科学習の時間を使っての来館を促せるような、常設展・企画展示と教科との関連づけを図り、資料や展示室環境の整備、その広報・周知活動に努める。
B 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	前年度並みの受け入れ	Yes(29件2,646人) ・本館 20件 1,251人 ・大利根 13件 1,457人 ・大多喜 4件 191人	前年度並み	【課題】 学校の授業に役立つ博物館であることを県民に周知 【改善案】 学習キットなどを充実するとともに、館業務とのバランスをとりながら、学校のニーズに合った研究員派遣の体制を整備する。
(有識者 所見)					
④ 外部依頼講師(大学, 行政研修会など他組織)					
A 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか	要望に応じた講師派遣等の実施	○外部講師の実施→Yes ○支援体制の構築→Yes [本館] 大学非常勤講師 20件 各種研修等講師 141件	前年度並み	【課題】 講師派遣・外部支援に際しての、当館および相手方双方のメリットの向上。 【改善案】 当館の特性などをよく説明して相手方に御理解いただいた上で、相手方のニーズと当館の専門性・人材とがマッチするよう適切にコーディネートする。
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立中央博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A 社会教育機関・地域住民等との連携	連携事業を行っているか	前年度並みの事業の実施	Yes [本館] ・県内自治体との連携事業(39件1,161人) ・特別展「テイラノサウルス」における市内百貨店との相互利用促進(986人) 体験教室(そごう・三越で各1回)40人 協定事業(そごう・三越)利用者946人 ・企画展「シカとカモシカ」における千葉市科学館・千葉市動物公園との3館園連携企画「ちばジカプロジェクト」の実施(本企画についての発表が「サイエンスアゴラ2012」にて審査委員特別賞を受賞) [大利根] 市民参画 写真展「私が撮った水郷2012」544人 イベント「昭和の名車大集合!!」372人 [大多喜] ・町イベントへの協力(分館施設利用) く大多喜さくらまつり>1,718人 県立大多喜高校:茶道部「茶席」、マンドリンギター部「マンドリンギター演奏」/大多喜町有志:和琴/大正琴演奏 く大多喜お城まつり>702人 県立大多喜高校:茶道部「茶席」/大多喜町有志:琴演奏/体験教室「甲冑・小袖の試着」15人/みらい塾(NPO)古の音調ペー鼓体験-(お城まつり)74人 ・県イベントへの協力(県民の日夷隅地域行事:大原・大多喜人車軌道開業100周年記念)ウォークラリー160人	前年度並み	【課題】地域振興の拠点としての認知度の向上 【改善案】本館:企画展等開催時、市内の社会教育機関・企業等との間に相互メリットのある連携を進める。分館:所在地自治体と連携した事業の強化
		(有識者 所見)			
②観光資源としての活用					
A 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか		○県外団体の利用:109件 ・本館:16(東京11,埼玉2,他3) ・大利根:13(茨城10,東京2,長野1) ・大多喜:80(東京19,埼玉16,茨城12,他33) *団体申込票で確認(過小評価の可能性あり)	前年度並み	【課題】当館来館を県外団体のツアー・コースに組み入れてもらうことにより、地域経済の活性化に貢献 【改善案】首都圏の旅行社等への広報資料の提供
B 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか		○外国人利用者数 734人 ・本館82/大利根23/大多喜627 ※視覚、事前情報をもとに計数(アジア系等計数漏れあり) 外国人向けには、本館と大多喜城分館で英文表記の利用案内パンフレットを用意している。	前年度並み	【課題】多言語での案内パンフレットの印刷 【改善案】印刷予算の要求を継続的に行う。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか		Yes ・館の使命は、展示室に掲示している。また、展示室において配布している「概要書」ならびに「利用のしおり」に明示しているとともに、館の役割や活動をHPでも紹介している。 ・展示室において博物館の役割と仕事を紹介する展示を行っている。 ・展示室において研究員の活動を紹介する展示を行っている。	継続実施	【課題】 海の博物館の使命履行 【改善案】 海の博物館は、千葉県立中央博物館の海の自然誌部門を担う海のフィールドミュージアムとして在り、千葉県の海の自然誌に関する資料収集・整理保存及び調査・研究の各事業を行い、成果を県民に還元するための教育普及・展示事業を展開することが使命である。そのために、定期的な会議で使命について絶えず確認しつつ、この使命を果たすために十分な検討を加え、効果的な博物館活動を推進する。
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。		・年次計画はあるか→Yes ・優先順位→Yes(年次計画) ・スケジュールによる予算要求→Yes(年次計画) ・事業実施→Yes(年次計画)	継続実施	【課題】 年次計画の実施 中長期計画の更新。職員の異動に伴う展示計画等の変更 【改善策】 東日本大震災(3.11東北地方太平洋沖地震)の影響を含む臨海の博物館を取り巻く社会環境や地域に関わる問題など、直面する多様な課題を定期的に協議することで事業の進捗状況を確認し、年次計画を修正しながらすすめる。また、各自の分掌や責任の範囲を確認し、柔軟性をもって計画された事業を実施する。
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか	現状維持	Yes 自己評価は毎年度実施している。また、主要事業では、行事毎にアンケートをとり、それを基に全体会議で検討し、改善に努めている。	継続実施	【課題】 海の博物館の事業内容に即した評価 【改善案】 現在の評価は県立博物館、美術館のすべての館で同じ評価をしている。しかし、事業内容の異なる館が、すべて同じ評価をするのは適切な評価とは言いがたい。海の博物館の使命には、調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及があり、これら全体をバランス良く評価することが重要である。従来から実施している事業評価について、今後も評価方法や項目等を検討し、これを受けてより良い博物館活動の実施に反映できるようにしたい。
外部評価	有識者会による外部評価を行っているか	実施	Yes 8/2に評価重点項目である収集・保存及び活用について実施した。	継続実施	
評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか	現状維持	Yes 事業計画の立ち上げ段階から前回事業の評価を踏まえての検討を行い、当館の使命に準拠し、より効果的な事業実施を目指すように努めている。また、事業終了後は実施報告を行って事業の評価確認することにより、続く事業への改善を行っている。	継続実施	
評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。	現状維持	Yes	継続実施	
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
2.組織と運営等					
①組織・人員					
危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか。	現状維持	Yes ・消防法第14条の4・・・自衛消防組織、消防法施行規則第3条第6項:防災訓練(通報・消火・避難)に基づき、火災・津波等を想定した「海の博物館防災活動マニュアル」を作製し職員に配布・周知している。 ・上記「マニュアル」に基づき、自衛消防組織を設置。火災発生による避難訓練や隣接する海中公園センターと合同で、3月11日の東北地方太平洋沖地震によって発生した大津波の襲来と博物館の対応を検証しながら、より実践的な津波対応の避難訓練を実施した。さらに、博物館施設の後背地にある丘陵への避難ルート探査を実施した。また、平成19年度から救護室に設置したAEDの更新に伴って機器操作の訓練を全職員に実施した。 ・危険人物の侵入に備え、展示室には、防犯ベル、刺叉等を設置している。	継続・充実	【課題】地域と連携した津波への安全対策の再検討 【改善案】海の博物館が立地する勝浦市の津波避難ビルとして指定されたことを踏まえて、地元鶴原地区の自治組織と連携した津波対応システムの検討をおこなう。
個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか。		Yes 千葉県個人情報保護条例第2条に従い、事務倉庫に保管し施錠管理している。また、講座・観察会等の参加者名簿については、同庫に保管すると共に、保存期間終了後には、裁断処分している。	継続実施	【課題】個人情報の管理の徹底 【改善案】業務用パソコン以外には、原則として事業に係る個人情報を入れないこと、個人情報は館内から持ち出さないことを再度確認。情報管理に関する職員の意識向上に努め、研修等も実施してを実施し、個人情報の管理の徹底を図る。
職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。	現状維持	Yes 本館経由による研修会の通知等は、全員に回覧し研修希望職員については、予算の範囲内において可能な限り受講の機会を与えている。	継続実施	【課題】予算の不足への対応 【改善策】予算的に不足しているため、参加する研修(学会を含め)は話し合いにより調整する。また外部資金の獲得に努める。
		(有識者 所見)			
②県民ニーズに則した運営					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか。	5%増 62,800人	<p>①利用者数に関して、総人数、小中高大学生、65歳以上、団体等の分類で算出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者/総数:63,926,累計:1,859,685 〈個:58,884,団/数:110,人数:5,042〉 〈一般:26,253,高大:1,539,乳幼:5,927,小中:12,903,高齢:10,118〉 ・情報問合せ件数:803 ・体験参加者:8,062/HPアクセス:41,642 <p>②上記の対前年度比を算出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者/総数:106.8% 〈個:106%,団/数:110%,人数:115.4%〉 〈一般:102.9%,高大:123.8%,乳幼:108.5%,小中:110.8%,高齢:108.8%〉 ・情報問合せ件数:99.0% ・体験参加者:191%/HPアクセス:67.8% ・資料閲覧件数:— <p>○海岸地域に位置する当館ではあるが、東日本大震災の風評被害から回復し、目標値達成へと至った。</p> <p>●未達成(達成率:101%)</p>	5%増 67,100人	<p>【課題】入館者の増加</p> <p>【改善案】東日本大震災の風評被害も落ち着いてきたようだが、入館者が安心して見学できるよう、引き続き海の安全性や緊急時の避難方法等を説明するとともに、H24からリニューアルされたHPの内容の充実及び各メディアを積極的に活用した広報活動により、一般だけでなく、県内外の児童・生徒・学生団体等に対しても博物館のPRを図る。</p> <p>常設展示以外の企画展示や体験活動の充実に努め、子どもたちに人気のスタンプラリーを継続し、さらに隣接する勝浦海中公園センターや地域の観光宿泊施設等と連携し、地域特性をいかした事業展開及び広報活動を取り入れて集客力のアップをはかる。</p>

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
利用者満足度・ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査(含むアンケート調査)を行っているか。	目標値未設定 (方法を検討)	Yes 展示室において自由記載方式のアンケート用紙を常備している。それにより、展示内容・料金等に関する意見は、概ね把握している。		【課題】 マーケティング調査の改善 【改善案】 現在は、自由記述方式のアンケートだけなので、マーケティング調査の方法を検討する。
(有識者 所見) アンケートの回収率を上げるなどの工夫も必要になると思われる。					
③情報公開					
使命・目標・計画などの方針公開 評価結果の公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	Yes	使命・目標等は公開しているか。 →館内の来館者ブースの比較の見やすい場所に掲示し、公開している。計画等については、ホームページや印刷物等により広く公開しており、透明性の確保に努めている。	継続実施	【課題】 使命や計画等周知手法の新たな展開。 【改善案】 現在行っている、館内掲示やHP、海の博物館の印刷物等での掲載を継続しながら、より広い周知に努める。
(有識者 所見)					
3.施設, 設備					
①施設設備の維持・管理					
定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。	現状維持	①改修・改善箇所の把握→Yes ②改修・改善の実施計画の年度別の構築→Yes ③計画通りの実施→Yes ④安全衛生管理の適切な実施→Yes ※基本的には、修繕箇所を早期発見し、修繕するよう心がけている。特に、入館者の安全を第一に考えて修繕している。	継続実施	【課題】 定期点検による改修・修繕箇所の早期発見 【改善案】 研究員による巡回と委託業者による点検により修繕・改善箇所を早期に把握する。日常業務において発生する、軽微な修繕等は職員、設備管理委託業者によりその都度改修を行う。
改修・保全	改修・保全が行われているか。			継続実施	【課題】 施設設備の改修 【改善案】 施設設備の改修・修繕については、毎年、もしくは隔年で予算要求を行い定期的に保守点検を行う。改修・修繕の必要なものは、入館者の安全を第一に考え優先順位をつけ改修・修繕する。
安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。			継続実施	【課題】 的確な安全衛生管理 【改善案】 衛生管理については、建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づき定期的な点検・清掃等を行い衛生管理をする。また日ごろから各自が管理責任者になっている部屋等の整理整頓をする。
(有識者 所見)					
②アメニティーの向上					
バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策、万人に対応した受け入れ態勢がとられているか		Yes 一般来館者が利用するエリアにおいては、車椅子用スロープ、点字ブロック、障害者用トイレ、専用駐車スペースを設け、バリアフリーの対応を行っている。	継続実施	【課題】 身体が不自由な方々への対応 【改善案】 車椅子の貸し出しや職員による介助も、必要に応じ行う。改修・修繕の必要がある場合は最優先で行う。また、バリアフリーはインフラだけではなく多様であるので、言語等のバリアフリーも含めて改善していきたい。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか	アクセス案内の改善	①公共交通機関が効果的に機能しているか。→No ②駐車場の確保→Yes ③サインのが適切な配置→Yes ④アクセスのインフォメーションが迅速かつ分かりやすいか。→ Yes ・鉄道等公共交通機関利用者については、JR・路線バスの運行本数が少なく、路線バスについては土曜日だけの運行になっているため平日においてのアクセスが不便である。 ・自家用車利用者については、駐車場の確保及びサインについては、概ね良好だがGW・お盆の時期は駐車場が過密状態となり、交通誘導員を配置したり、職員による誘導等を行っている。 ・館へのアクセスについては、HPでの案内の他、幹線道路に看板を設置している。また利用案内にも地図等を掲載している。	アクセス案内の改善	【課題】 アクセス案内の改善 【改善案】 所見欄に記載したような改善を図っているが、看板の設置など改善する点は多々ある。隣接する勝浦海中公園センターは東京駅の構内など多くの場所に広告があり知名度が高いため、同公園に隣接していることを表示する。また、同公園と海の博物館のHPに互いの情報(隣接している)を掲載している。また、宣伝という観点からも隣接する同公園の看板に当館の情報をいれてもらうなどの改善策を検討する。
ミュージアムショップ	—		該当なし (ミュージアムショップはない)		【課題】 特になし。 【改善案】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
4.財源					
①予算の確保					
入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうであったか	5%増 5,521,000円	・入場料収入:5,376,200円(H23:5,257,840) 前年度比:102% ○昨年度よりは増加したものの目標達成には至らなかった。無料入館者の増加が多かったことが原因と考えられる。 ●未達成(達成率97%)	5%増 5,645,000円	【課題】東日本大震災の風評被害は回復傾向であるが、積極的な広報活動やHPの充実等により有料入館者の年齢層にPRLして集客し、入場料収入全体の増加を図る。 【改善案】入場者数の増加と同じ
その他の収入	その他の事業収入はどうであったか	5%増 8,917,000円	・駐車場収入:9,312,700円(H22:8,492,600円) 前年度比:109% ○東日本大震災の風評被害が回復したこと。家族連れでの来館が増えたことが考えられる。 ●達成(達成率104%)	5%増 9,778,000円	
		(有識者 所見)			
②館独自の財源獲得					
外部助成金等の獲得	外部助成金等を獲得しているか		①外部助成金等の申請→Yes ②外部助成金等の獲得→Yes ③獲得件数:3件/金額:2,460,782円 →①研究員は、外部資金も導入してより充実した博物館活動を実践するために、文部科学省科学研究費等に毎年応募している。 →②③本年度は、文部科学省科学研究費が1件採択され、1,170,000円の交付を受けた。また、企画展示に際し、日本財団への助成申請が採択されて989,782円の助成を受けた他、一般財団法人海苔増殖振興会からの助成(301,000円)を受けた。		【課題】助成金の獲得 【改善策】企画展示用、研究用の助成金について積極的に申請を行う。また、学術研究のレベルを向上させ共同研究を多くすることにより外部からの財源を獲得する基盤を整える
		(有識者 所見) 研究のための外部資金の獲得や共同研究も、研究成果を受けて行われる今後の展示や教育普及活動の質を上げることにもつながると考えられるので、今後も積極的に応募・参加していただきたい。			
5.収集、保存及び活用					
①資料収集					
コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	法令の遵守	Yes 資料収集に関する内規は、常に見直し、法令等への遵守に努めている。また、法令の改正等があった場合には、職員全員に供覧し周知を図っている。	継続実施	【課題】法令を遵守する 【改善案】海洋生物資料の採集に関しては、今まで通りに事前に関係漁業協同組合の同意を得るとともに、県(知事)からも特別採捕許可を受ける。また、県外での資料収集においても、今までとおりに入館先機関を介して、関連する漁協や自治体の許可のもとに採集、調査、等を行う。
寄託・寄付・購入点数	寄託・寄付・購入件数は何件・何点か		①受託 0件(0点) ②寄付(提供) 19件(39点) 前年度比は件数が65%、点数は130% ③購入した資料 0件(0点)(該当なし)		【課題】寄付(提供)件数の増加 【改善案】地元の漁業者から提供された資料の中には、漁業者でなければ採集できない貴重な海洋生物が少なくない。漁業者からの提供を促進するためには、海の博物館で海洋生物を収集していることを地元漁業者に周知する必要がある。そのため毎年4月当初に勝浦にある二つの漁業協同組合に向いて組合長に協力を依頼する。
		(有識者 所見) 地域的な人材環境を十分に活かし、効率的な資料収集が行われている。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②資料保存					
保存処理	資料の保存処理が行われているか	現状維持	①適切に行われているか。→ Yes ②保存処理の予算要求→ Yes ※資料の保存処理に係わる予算は、毎年要求を行い、配当を受けている。	継続実施	【課題】 資料の適切な保存処理 【改善案】 基本的には全てにおいて収集当日に液浸標本もしくは乾燥標本にし、標本の状態に応じた収蔵庫(液浸,乾燥,大型)に保管する。ただし、サメなどの大型の資料は、大型冷凍庫に一時保管することもある。
修復	資料の修復作業が行われているか	現状維持	①適切に行われているか。→Yes ②予算要求を行っているか。→Yes ※修繕は研究員ができるものは、できる限り行っている。	継続実施	【課題】 資料の適切な修繕 【改善策】 修復が必要な資料の手当は、各担当者が随時行う。ただし、業者に修繕を委託する必要がある場合など予算が必要な物件に関しては、予算を確保して修繕する。
収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	現状維持	①定期的な維持管理 → Yes ・収蔵資料の維持管理に関しては、各分類群担当者が適宜行っている。本年度は、乾燥収蔵庫で薬剤(酸化プロピレン製剤)燻蒸を実施した。 ②収蔵庫の適切な温湿度管理→Yes ・各収蔵庫の環境管理は、収蔵庫管理担当者ならびに設備管理委託業社社員(常駐)により、適宜行っている。 ③収蔵庫の入出者等の管理→Yes ・入口に入室の有無を室外から確認できるように表示を設置した。	継続実施	【課題】 収蔵庫への入室者の管理 【改善策】 収蔵庫内へ外部者を入れる場合には、必ず担当職員が立ち会い、事故のないように配慮する。また、受付で外部からの入館者をチェックを徹底し、不審者の入館を防止する。
		(有識者 所見) 保存処理のマニュアルの共有化など改善が見られる。			
③資料管理					
収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か	500点増	①収集点数:59,022点(166点増) ○各自然誌系研究員が年間100点の資料収集を目標としており、今年度は166点の資料を登録した。 ●達成(33%) ※資料収集調査に条件の良い日は、観察会や学校からの観察会の講師依頼等があり、資料収集の時間の確保が難しい。そこで、観察会や観察会の講師などローテーションを組み研究員が資料収集できる時間が確保できるよう工夫している。また、観察会等の事前準備も今までの経験を踏まえ効率よくできるよう協力している	継続実施	【課題】 資料収集の時間を確保し、収集点数を増やす 【改善策】 調査・研究、資料収集とその成果を展示・普及活動として県民に還元するため各業務にかける時間のバランスを工夫し、資料収集を行う時間を確保する。
登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか	登録点集/収蔵点数:80%	・登録点数/収蔵点数: 80 % 4名の自然誌系研究員が年間400点を目標に資料の登録作業を進めており、ほぼ目標数を達成している。しかし、海洋生物では微細な物や名称を調べるために多大な時間を要する物が多く、このため、登録資料点数と収蔵資料点数との間には、ギャップが生じている。 ●未達成(達成率80%)	継続実施	【課題】 登録点数の拡大 【改善策】 海洋生物は標本登録するまで多大な時間がかかるが、資料収集は博物館の重要な使命である。したがって、展示・普及活動と資料収集、調査・研究(基礎研究)のバランスを考えた事業計画を検討し、登録にかける時間を確保する。
		(有識者 所見) 定期的な清掃実施や収蔵庫モニタリングとその結果を職員間で共有化しており、IPM意識の向上がうかがえる。			
④資料活用					
貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	目標値未設定	Yes (件数:16(77点),前年度比:145%) 資料貸出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。	継続実施	【課題】 資料利用の促進 【改善案】 利用可能な資料のリストを作成するなど資料利用の促進を目指す。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
		(有識者 所見)			
⑤一般図書管理					
収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か		①収蔵冊数：1,882冊 未製本の学術雑誌は、1種類1冊として計数。	継続実施	【課題】図書購入費がなく、最新の情報入手に支障が生じている。 【改善策】図書購入の予算を請求し、予算を確保する。寄贈を受けられる図書については、引き続き寄贈の打診や依頼を行っていく。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
6. 調査・研究					
① 調査事業					
調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	目標値未設定	Yes (件数:10(前年度比:200%)) ○千葉県海の自然誌に関する博物館として、「房総半島およびその周辺の海洋生物相とその特徴」を統一テーマとした調査研究活動を行っている。 ○研究員が共同して行う「総合分野研究」と、個々の自然誌系研究員がそれぞれの専門分野について個別に行う「詳細分野研究」の二つに大別され、「総合分野研究」を3件、「詳細分野研究」を7件の、計10件の調査研究を行っている。また、それらとの関連において、外部の機関とも共同した研究も行っている。	継続実施	【課題】 調査・研究の時間の確保し学術研究のレベルをアップする 【改善策】 海の博物館の使命は調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及である。それぞれの業務に費やす時間のバランスを工夫し、調査・研究の時間を確保する。
		(有識者 所見) 他に例のない海洋生物を対象とした研究機関的博物館として、今後も継続して活動を行ってほしい。			
② 外部との調査・研究					
外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	目標値未設定	Yes (件数:24(前年度比:114%)) 〈相手先〉 東京海洋大学, お茶の水女子大学, 筑波大学, 琉球大学, 日本大学, 東邦大学, 東海大学, 西海区水産研究所, レイジアナ大学, オークランド大学など		【課題】 共同の調査・研究の時間の確保 【改善策】 共同の調査研究は数日を要することが多く、調査・研究にいく研究員の業務を他の研究員が分担して行えるシステムを構築し、共通理解を図ることにより、時間を確保する。
		(有識者 所見)			
③ 研究成果の発表					
展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	10件	Yes 8企画:13(前年度比108%(H23:12)) →調査研究活動で得られた成果は、随時、展示や講座、等の教育普及活動に反映させている。本年度は、調査研究活動に基づく13件の企画展示や新たな展示品を展示室において公開した。 ●達成(130%)	10件	【課題】 研究の成果を展示に反映させる 【改善策】 マリンサイエンスギャラリーと収蔵資料展については、年次計画を作成し、実施に向けての調査研究活動を充実させる。また、研究の成果があったときに、小規模の展示を迅速に行うようなシステムを構築する。
研究成果の学術的公表(館独自項目)	学会誌や館の報告書等の論文執筆を行い、発表を行っているか	現状維持	①学術雑誌、学術書等での公表→Yes 学術論文12(前年度比109%) ②学会等で発表しているか→Yes 学会発表 21(前年度比191%) ③普及書等の執筆→Yes 一般科学報文37件(前年度比119%) ●達成	現状維持	【課題】 研究成果の発表、論文執筆及び県民への還元 【改善策】 海洋生物を専門とする研究員は減少したが、県民への研究成果を還元することは重要なので昨年度と同程度の公表を目指す。
新聞、雑誌等マスコミ掲載(館独自項目)	研究成果を新聞等に掲載しているか	目標値未設定	①件数 4件 千葉日報「チーバくんと学ぶ深い海に暮らす生きものたち」4件		【課題】 新聞への掲載を継続する(研究成果を県民に還元する) 【改善策】 新聞掲載を継続するために、調査・研究に取り組むとともに掲載するための資料収集に努める。新聞は多くの県民が読むため新聞掲載は、研究成果を県民に還元するよい手だてである。
		(有識者 所見) マスコミへの発信方法について、新聞以外のメディア(インターネットや雑誌などの媒体)の開拓も必要ではないか。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
7. 展示					
① 常設展示					
展示更新回数・ 点数	計画的な展示替えが 行われているか	更新回数50回	①展示替計画の有無→Yes ②計画通りの展示替→Yes ③年間更新回数:45回(H23年度39回:前 年度比115%):内訳はユニット展示の交換 ×1、季節展示の交換×3、トピック展示 の更新×13、自然観察エリアホワイト ボード×19、こんなのみたよ×8、こんな 研究をやってます×1 ●達成できなかった(達成率90%)	更新回数50回	【課題】計画的な展示の交換・更新 及び来館者等からの情報の収集 【改善案】常設展示のうち、ユニット展 示、季節展示、自然観察エリアの各 コーナーの定期的な交換を、年間計 画に基づいて行うとともに、トピック展 示やこんなのみたよのコーナーなど については来館者からの情報等が重 要になるので、頻繁な情報収集ととも に、来館者へのこれらのコーナーの 周知を図る。また、新規のユニット作 製の計画を立て、推進する。それに 際して、費用を要するものは、予算の 確保に努める。
展示保守・管理 状況	計画的な保守や管理 が行われているか	現状維持	①保守や管理の計画の有無→有 ②計画通りの実施→Yes ③保守・管理のための予算要求→Yes ④展示中の事故(職員・来館者)→無 ・剥製・ジオラマ等の展示品、AV機器に ついては、毎年1回、来館者が減少する 冬季に休館日を利用、もしくは臨時休館 日を設けて、専門の業者による保守点検 を行っている。	継続実施	【課題】来館者の安全に留意した展 示保守・管理及び補修。展示機器類 の老朽化 【改善策】軽微な損傷等について は、職員が日常的に保守を行ってい る。特に、来館者が触れる展示品 は、安全面に留意し、消耗や破損を 考慮して、随時交換等を行う。展示 機器類(モニター、プレーヤ、タッチパネ ル等)の多くがすでに耐久年数を越 えており、いつ壊れてもおかしくない 状況であるので、補修または交換の ための予算請求を継続して行う。
満足度	来館者が常設展示に 満足しているか	アンケート項目「③ 入場してよかった か」の5と4の評価で 70%以上	①面白い展示であったか(アンケート) <5:4:3:2:1=55%:26%:12%:2%:5%> ②わかりやすい展示だったか(アンケート) <5:4:3:2:1=48%:26%:20%:2%:3%> ③入場してよかったか <5:4:3:2:1=54%:35%:7%:1%:3%> ④職員の資質向上に努めているか→Yes ⑤入場料金は適切か。 高い:適切:安い=9%:41%:50% ●達成(指標85%:達成率121%)	アンケート項目「③ 入場してよかった か」の5と4の評価で 70%以上	【課題】来館者が満足できる常設展 示 【改善案】展示内容については、ア ンケート結果をもとに改善すべき点 を全職員で検討し、改善に努める。
		(有識者 所見) 最新研究成果がつねに反映される常設展示を目指してほしい			
② 企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
			設定なし		
(有識者 所見)					
③ 出前展示					
展示企画数	何回展示企画を行い 実施したか、または展 示の要望があったか		実施せず		【課題】出前展示への対応 【改善策】要望があったときに、速や かに対応が可能なキットをあらかじめ 準備するなどの対応を検討する。
満足度	利用者が満足してい るか				
(有識者 所見)					
④ 他館との合同企画による展示					
展示企画数	何回展示企画を行い 実施したか、併せて ネットワークを活用した 企画であったか	目標値未設定	実施せず		【課題】合同企画展示の開催 【改善案】これまで他館で企画され た展示を合同で行った例があるが、 今後は海の博物館で企画した展示 を他館と合同で行える体制をつくる。
満足度	来館者が満足してい るか	目標値未設定			
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
⑤企画展示(入場料を変更しない展示)					
展示企画数	何回展示企画を行い実施したか	マリンサイエンス ギャラリー年度内入 場者8,800人(前年 度比105%)	①企画数:3件 「マリンサイエンスギャラリー チーバクんと 学ぶ 深い海に暮らす生きものたち」、「収 蔵資料展・海のカニ・川のカニ」、「～ダイ バーズフォトギャラリー～勝浦の海をゆ く」を開催した。 ②入場者動向の把握→Yes ③H24年度内入場者数8,381 ●達成(197.2%)(H23年度入場者:4,044) ※23年3月に発生した東日本大震災以 降入場者数が減少していたが、24年度 は回復傾向が見られ、目標を大幅に上 回った。それに加え、展示のテーマが一 般に興味を引く深海生物が中心であった こと、千葉県のマスコットキャラクターであ るチーバクンを使用したことも入場者数 の大幅増加に繋がったものと推察する。	マリンサイエンス ギャラリー年度内 入場者8,800人(前 年度比105%)	【課題】 予算削減による企画展示の 予算不足 【改善案】 解説書、ポスター、チラシ 等は外部資金(日本財団の助成金) で印刷する。業者委託により製作し なければならない複製等の以外の展 示物、展示パネル等は、職員の知 識・経験を集約して、可能な限り職員 自らで作製する。
満足度	利用者が満足している か	アンケート 全体的な感想(満 足度)の5と4評価で 80%以上	満足度(アンケートによる5段階評価) マリンサイエンスギャラリー「チーバクんと 学ぶ深い海に暮らす生きものたち」 5:4:3:2:1=56.7%:33.3%:10.0%:0%:0% →5と4の割合 90.0% ●達成: 評価5と4で90.0%→目標達成 前年度はアンケート項目を4段階評価と したが、5段階評価に戻し「評価5と4で 80%以上」に変更した	アンケート 全体的な感想(満 足度)の5と4評価で 80%以上	【課題】 来館者が満足する展示 【改善案】 アンケート結果を基に、来 館者の要望に対応した展示を計画・ 実施する。
		(有識者 所見) カニ展については、自然科学だけでなく人文系のアプローチもあり、非常に良い展示であった。今後もこうした取り組みを進めてほしい。			
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
体験学習等の回 数	各館使命に基づいた 体験学習等をどのくら い行っているか	館主催:80回	回数(館主催):90回<前年度比113%> ・観察会9回,フィールドトリップ8回,バック ヤードツアー4回,タッチプール20回,海の 体験コーナー41回,みんなで工作8回 ●達成(113%)	館主催:80回	【課題】 参加者が安心できる体験活 動の実施 【改善案】 震災以降、海辺での活動 に不安を感じる参加者が少なくない ので、開始時に安全管理の詳細な説 明、放射能数値が安全な値を示して いることを伝える。博物館の使命である 資料収集と調査・研究の成果を還 元する場が体験活動であり、研究員 各自が専門性を活かした質の高い充 実した体験活動を展開することが参 加者を満足させると考えている。さら に今までのアンケートの結果等を考 慮し、以下の対応を行う。 ・気軽に質問できるよう参加者20名程 度に対し2名の研究員で対応。後 日、参加者から電話や電子メール等 で質問がよせられた場合にも、各担 当が随時対応。 ・観察会:行事に合わせて参加者が 内容や海洋生物がわかるようなテキ
体験学習等の参 加者数	個々の事業に参加した 人数は何人か	定員の8割	参加者909人/達成率100%(定員911人) ・・・参加者人数<定員充足率> ・観察会:82人<49.6%> ・フィールドトリップ:123人<103%> ・バックヤードツアー:51人<85.0%> ・タッチプール:306人<153%> ・海の体験コーナー:252人<102%> ・みんなで工作:95人<79.2%> ●達成(125%)	定員の8割	

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
満足度	参加者は満足しているか	4段階評価で1,2評価が80%以上	アンケート調査による4段階評価(1, 2)の評価が99.5%に達し行事参加者の満足度は高かった ・観察会 1:2:3:4= 63%:37%:0%:0% ・フィールドトリップ(磯・いそ探検隊) 1:2:3:4=63%:37%:0%:0% ・バックヤードツアー(博物館探検隊) 1:2:3:4=67%:33%:0%:0% ・みんなで工作海の生きもの 1:2:3:4= 68%:31%:1%:0% ●達成(123%/目標80%に対し) ※タッチプール、海の体験コーナーについては、アンケートは取っていない。	4段階評価で1,2評価が80%以上	ストを作成。また、「自然観察エリアガイドマップ」及び「海の生きもの観察ノート」も活用。さらに「磯観察キット」を活用し充実した磯観察を実施。 ・タッチプール:触れる生物の名前や生態がわかるよう必要に応じ「自然観察エリアガイドマップ」を配布。 ・海の体験コーナー・みんなで工作:活動内容や工程がわかるような観察シートを作成し配布。 ・磯観察などに役立つ「海の生きもの観察ノート」を継続して発行。
		(有識者 所見) 講座等の参加者が少なく、きちんとしたマーケティング調査を行い、適時適切な事業を実施すべきである。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②講演会					
講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか	5回	・実施回数:4回(前年度比66%) 企画展示(マリンサイエンスギャラリー)に関連する行事も行うことができたが、回数は目標値に達しなかった。 ●未達成(80%)	3回	【課題】参加者を増やす 【改善策】参加者を増やすために内容を検討したりHPなどで積極的に広報する。
講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か	定員充足率60%	参加者数:18人(充足率22.5%) ・企画展示に関する講座を中心に実施したが、参加者増加につながらなかった。 ●未達成(37.5%)	定員充足率60%	
満足度	参加者は満足しているか	4段階評価で1,2評価が80%以上	満足度(アンケート調査による4段階評価) この行事に参加していかがでしたか 1:2:3:4=89%:11%:0%:0% (1,2の評価が合計100%) ●達成(125%:目標値80%に対し)	4段階評価で1,2評価が80%以上	
		(有識者 所見)			
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか	現状維持	Yes(対応件数:803件) 電話750件/来館者が直接26件/メール等27件(H23年度=811件)	継続実施	【課題】問い合わせ者が満足できる対応 【改善案】県民から信頼される職員を目指して電話での対応には十分留意し、専門的な質問には、専門分野に最も近い研究員が担当して回答するなど、可能な限り十分かつ迅速な回答を行う。
		(有識者 所見)			
②メディアへの情報発信					
発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	発信件数100件	○情報を定期的に発信→Yes 件数:290件(目標値100件/達成率290%) ○協力要請に対応→Yes 件数:45件(上記含まず)(新聞テレビラジオ17件,その他情報誌等28件) 当館では、報道機関や雑誌、近隣市町村の広報誌に定期的に館イベント情報を提供している。また各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応した。 ●達成(達成率290%)	発信件数100件	【課題】メディアの要望する情報の発信 【改善案】これまでは主に館行事の案内などの情報発信に限られているが、当館が関連する海洋生物に関する話題など、メディアの要望する情報を積極的に発信するシステムを築く。
		(有識者 所見)			
③ホームページによる広報					
ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数はどのくらいか、資料検索システムの登録件数はどのくらいか	更新:30回 アクセス:72,500回	Yes(更新:40回(133%達成)) アクセス件数:41,642(前年度比68% (H23:61,373)) 情報システムの切替により、「海の博物館」で検索しても上位でヒットしないなどが要因と思われる。 ●達成率(57%)	更新:30回 アクセス:62,000回	【課題】新情報システムに切り替わり、「海の博物館」で検索しても上位でヒットしなくなった。 【改善案】現在の県立各館のアクセス数報告は、HPのトップページへのアクセスがカウントされており、HP内の各ページ(番組)へ直接アクセスしたものは反映されていないようであるから、これらが反映される仕組み作りが必要。
		(有識者 所見) アクセス数減少の原因をしっかりと究明し、改善する必要がある。ツイッターによる情報発信も、メディアへの情報発信活動として評価対象とするべきではないか。			
④印刷物の刊行					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	4種類	○情報提供→Yes(5種(達成率125%)) マリンサイエンスギャラリー(ポスター,リーフレット,解説書),収蔵資料展(リーフレット),開催行事案内 ○時期は適切か→Yes(実施の1月前) マリンサイエンスギャラリー(解説書,ポスター,リーフレット),収蔵資料展の広報資料(リーフレット)及び年間行事計画を発行した。 ●達成(125%)	4種類	【課題】より効果的な印刷物の配布 【改善案】一般県民により興味を持ってもらえるような印刷物の作製と広報の効果のある配布場所の選定。
		(有識者 所見) 近隣水族館と異なる個性を持っていることを十分に打ち出した広報活動が必要ではないか			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
⑤図書室の公開					
図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	現状維持	Yes (利用者: 63,926(H24入館者)) 展示ロビーでの図書は開架で来館者が自由に閲覧できるようにしており、多くの来館者が閲覧しているため利用者数と来館者数はほぼ一致すると考えている。	継続実施	【課題】ロビー図書の充実 【改善案】展示ロビーに入館者が興味・関心を持って、しかも内容がわかりやすい海の自然誌に関する各種図書を選定、配架する。また、館内の図書室には主に専門書を収蔵しており、こちらについては一般に開放はしていない。ただし、特に希望があった場合には、職員立ち会いのもとに閲覧を許可する。
		(有識者 所見)			
10. 県民参画					
① 県民との協働					
ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	目標値未設定	Yes ○人数:36<前年度比116%(H23:31)> 平成21年度からボランティア制度を設け、24年度は20名に「うみはくボランティア」として活動してもらった。主な活動は、諸活動の準備作業、資料収集活動及び行事实施時の補助等である。また、従来通り資料等を頻繁に提供いただいている地元漁業者等16名をボランティアと位置づけた。 ○活動日数:297(H23:182) 登録した「うみはくボランティア」20名の活動延べ日数が278日、その他のボランティアの活動延べ日数が19日。	目標値未設定	【課題】「うみはくボランティア」の活動の拡充 【改善案】「うみはくボランティア」の活動については、各ボランティアが興味を持った活動をしてもらえるように、希望調査を行い、適宜業務を用意する。また、より連帯感を持ってもらうようにするため、全員を対象とした共同作業や研修を計画する。資料提供ボランティアについては、地元漁業者との人間関係の構築、その維持に努める。
県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	現状維持 (30件)	Yes (件数:27<前年度比90%(H23:30)> ・資料受入19件(39点)、展示情報8件 近隣住民、来館者等から資料や情報の提供を受けることがあり、それらについては、状態や価値を判断した上で、収蔵資料、調査研究、展示等に活用している。 ●未達成(達成率90%)	継続 (27件)	【課題】県民からの情報の提供を増やすとともに適切に対処する 【改善案】海の博物館が県民からの情報を積極的に受け入れていることをHPなどで周知し、情報の提供を啓発する。特に地元住民には積極的に周知活動を行う。また、得られた情報を積極的に展示に反映するなど、適切に対処する。
		(有識者 所見)			
② NPO・外部機関との連携・調査					
NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	連携・調査件数5件	Yes (件数:2<前年度比28%(H23:7)> NPOとの連携については特に制度は設けておらず、必要が生じた際、その都度職員で話し合い対処している。 ●未達成(40%) ※平成24年度は、勝浦ダイビング協会と連携して写真展を開催し、また、NPO法人南外房環境クラブと行事や地域の自然に関する研究で連携した。	連携・調査件数2件	【課題】NPOとの連携を増やす 【改善案】引き続きNPOとの連携ができるよう情報を収集し連携を実現させたい。
		(有識者 所見)			
11. 人材育成					
① 博物館実習					
博物館実習の人数	博物館実習を行っているか	目標値未設定	Yes (件数 1件/人数 2名) 月に本館の博物館実習の一部を担う形で開催した。25年度は受け入れ方針などが確定していないことから実施しない予定。	目標値未設定	【課題】博物館実習の実施時期 【改善案】博物館実習の多くが8月に行われることなどから、海の博物館では行事が多く開催される繁忙期の博物館実習は厳しい。実施時期については検討が必要。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②教員等研修					
教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	5件 100人	Yes 件数:5<前年度比63%(H23:8)> 人数:76<前年度比39%(H23:193)> →教員研修に関しては、県総合教育センターと共催で1回、他各種教員組織からの依頼に応じて研修会を開催している。県高校理科部会や夷隅郡市理科部会の研修を行ったが、教員研修は研修後にその成果が学校教育に還元されるという点からも重要である。特に、海のある地元の教員の研修の件数を増やしたい。 ●件数は達成、人数は未達成(件数100%/人数76%)	継続実施	【課題】件数及び人数を増やす 【改善案】年度初めに理科教員を中心にした研究会等に海の博物館での研修会の実施を呼びかける。
(有識者 所見)					
③職場体験学習・インターンシップ					
職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	3件 10人	Yes 件数:3<前年度比150%(H23:2)> 人数:9<前年度比225%(H23:4)> 前年度に比べ地元小中学校からの職場体験の件数、参加する児童・生徒の数ともに減少した。 ●達成(件数100%/人数90%)	3件 10人	【課題】職場体験の受け入れ期間と人数の調整 【改善案】職場体験はなるべく多くの児童生徒を受け入れたいが、繁忙期と重なると受け入れが難しくなるので、より効率的な受け入れを実現するために年度当初に連絡調整するなど、学校との連絡を密にする。
(有識者 所見)					
④ボランティア育成					
ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	5件	Yes 件数:5件/人数:計10人 20年度からボランティア育成のための研修を実施している。研修内容は、博物館の活動内容の解説4回、室内講座1回であった。 ●達成(100%)	5件	【課題】計画的な研修 【改善策】ボランティア育成のため、今まで以上に計画的な研修ができるよう努める。また、個々の要望に応じた研修も実施できるよう努める。
(有識者 所見)					
12. 県民等からの依頼による学習支援					
①常設展示・企画展示等の活用					
常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	50回 1,000人	Yes 回数:254<前年度比127%(H23:199)> 人数:5364<前年度比130%(H23:4,101)> →当館では、体験交流員による定時解説(222件3557名)と、研究員が団体等からの依頼に応じて行う解説(件数32件1807人)がある。1名の職員で一日に2団体の対応をするなど、懸命な努力によって目標値を上回った。 ●達成(件数508%/人数536%)	200回 4,000人	【課題】県民の要望に応じた解説の充実。 【改善案】展示解説への対応は、研究員の日程調整をして対応する。また、より多数の要望を受け入れるために、ボランティアによる解説の充実を図るための研修を実施する。
(有識者 所見)					
②館内における講座・講演会活動					
講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	30回	Yes 回数:9<前年度比81%(H23:11)> 人数:253<前年度比47.8%(H23:529)> ●未達成(件数30%)	10回	【課題】講演会等の受け入れ体制の検討 【改善案】より多くの要望に応じるため、効率的な受け入れ体制を検討する。
(有識者 所見)					
③学校連携事業					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	35回	Yes 回数:48<前年度比966%(H23:50) 人数:2,260<前年度比92%(H23:2,449)> →近年の学校の統廃合による学校数の減少などで回数の減少が懸念されたが、日が東日本大震災の関係で臨海学校を中止していた東京の学校が行事を再開したことなどにより、目標値を達成できた。 ●達成(137%)	35回	【課題】学校等の団体の受け入れ体制の検討 【改善案】より多くの学校を受け入れるため、効率的な受け入れ体制を検討する。また、地元の学校を中心に周知する。
出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	10回	Yes 回数:7<前年度比175%(H23:4)> 人数:495<前年度比259%(H23:191)> ●未達成(件数70%)	7回	【課題】出前授業の回数を維持する 【改善案】現状の回数出前授業を実施するため、効率的な受け入れ体制を検討する。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

県立中央博物館分館 海の博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
④外部依頼講師(大学, 行政研修会など他組織)					
外部依頼講師の 回数・人数	外部への講師派遣等 の要望があるか, また, 支援体制が構築されて いるか	目標値未設定	Yes (12回)	目標値未設定	【課題】支援体制の構築 【改善案】学校や社会教育関係で どのような支援(講師)ができるかを説 明できる資料を作成し、学校や社会 教育関係機関に説明する。
(有識者 所見)					
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
社会教育機関・ 地域住民等との 連携	連携事業を行っている か	目標値未設定	Yes ①住民との協働による情報の収集 漁業関係者から19件39点の海洋関係生 物等が提供された。それらを展示室で紹 介するとともにHP等で随時公開してい る。 ②地元市町村・関係機関との連携 地元の勝浦ダイビング協会と協力して平 成24年度写真展「～ダイバーズフォトギャ ラリー～勝浦の海をゆく」を開催した。 千葉県総合教育センターと連携し、「海 の環境学習講座」を実施した。	目標値未設定	【課題】地域企業との協働事業実施 に伴う経費の按分化 【改善案】地域連携を一層推進する 上で、民間事業者との協働事業実施 を容易にするために、条例改正等に より経費の按分化が図れるようにする 等、基盤整備が必要。
(有識者 所見)					
②観光資源としての活用					
県外団体来館数	県外の利用はどのくら いあるのか	100団体 3,000人	①団体・来館者数:59団体/3,356人 (H23:2,795人) ②利用地域: 東京77%,埼玉10%,神奈川 1%,茨城5%,他5% ●達成(団体:59%/人数:111%)	継続	【課題】県外の団体の誘致 【改善案】隣接する勝浦海中公園セ ンターが毎年東京の学校にダイレク トメールを発送しており、これに海の博 物館の「ご利用のしおり」を同封して もらい、併せてホームページの活用 を促進し、最新の情報を提供し易く する。
外国人入場者数	外国人の利用はどのくら いあるのか	目標値未設定 (方法を検討)	①来館者数:152人(H23は143人) ②配付資料:2種類/「利用のしおり(英語 版)」「(無料)、展示解説書の巻末に2ペー ジの英文要約付(有料)。 ※外国人から要望があった場合は、研究 員が対応している。	目標値未設定 (方法を検討)	【課題】外国人の人数のカウント 【改善案】現在の入館者確認システ ムでは、外国人入館者の数は正確に 把握できない。外国人と推測される 入館者を受付で計数しているのが現 状である。したがって、実際にはアジ ア系を中心に多くの入館者がいると 思われるが、適当な改善策は見当た らない。
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
A 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか	Yes	Yes 館内エントランスホールに掲示し、来館者に周知した。HPでも公開している。	Yes	【課題】 特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
A 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。	Yes	Yes 事業計画を構築し、職員に周知した上で、事業を実施した。	Yes	【課題】 特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
A 自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか。	Yes	Yes 事業毎に実施記録を作成し、継続点や改善点を明確にし、次回以降へ反映できるよう努めた。	Yes	【課題】 特になし 【改善策】
B 外部評価	外部評価委員会による外部評価を行っているか。	Yes	Yes 企画展「未来へつなぐエネルギー～いま走り出した つくるためのつかう技術～」とエネ学教室 ～エネルギーについて学ぼう～「燃える氷 ～メタンハイドレート～」、および常設展示について外部評価を実施した。	Yes	
C 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか。	Yes	Yes 個々の部署において随時改善策等を検討し向上を図っている。	Yes	
D 評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。	Yes	Yes 評価作業を行うにあたり外部評価委員の意見・視点をよりよく反映できるよう検討しながら進めた。	Yes	
		(有識者 所見)			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか	防災訓練等の継続実施	Yes 下記の日程で、展示室からの避難誘導訓練を実施し、実施後の反省に基づきマニュアル等を逐次改善した。 ・第1回 H24.4.9 ・第2回 H24.7.9 ・第3回 H25.1.7	防災訓練等の継続実施	【課題】 特になし 【改善策】
B 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか	Yes	Yes 収集段階で目的以外に使用しないことを告げ、適切な管理に努めた。	Yes	【課題】 特になし 【改善策】
C 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。	Yes	Yes 職員の資質向上、本館運営・事業推進に役立てるよう、以下の研修会に参加した。数字は人数。 ・千葉県博物館職員等研修会 1 ・千葉県博物館協会研修会 1 ・除染等業務研修 1 ・情報公開・個人情報保護説明会 1 ・公務災害補償事務研修 1 ・財務会計年度末事務 2 ・主任主事・副主任級研修 2 ・財務会計・会計事務研修 2 ・メンタルヘルス研修 3 ・行政対象暴力対策研修 1 ・物品・委託契約事務研修 1 ・文化財管理指導者研修 1 ・パワーアップ研修 2	Yes	【課題】 特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②県民ニーズに則した運営					
A 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか	総入館者数 180,000人を目指します。	〇内は前年度比(%) 総数:161,882(90.9)/累計4,774,426 個:149,437(91.6) 団:12,445(83.4)/数:273(77.1) 般:120,135(95.4)/高大:970(61.4) 小中:28,714(89.4)/幼:9,049(97.6) 高齢:3,014(61.2) 企画展期間中の入館者数が昨年より減少したことなどにより、目標を下回った。	総入館者数 180,000人を目指します。	【課題】24年度の減少を挽回する。 【改善案】特別展「飛べ！大空に」、および企画展プラネタリウム上映会を成功させる。
B 利用者満足度・ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査を行っているか	Yes	Yes 利用者からの声を通年で受け付けているほか、企画展・展示会等で行うアンケート調査から、利用者ニーズの把握に努めた。	Yes	【課題】常設展示場のニーズの把握 【改善案】企画展・常設展のアンケート調査を実施する。
(有識者 所見)					
③情報公開					
A 使命・目標・計画などの方針公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	Yes	Yes 館内エントランスホールに掲示するとともに、リニューアルしたHPで公開している。	Yes	【課題】特になし 【改善策】
B 評価結果の公開		Yes	Yes HPで公開している。	Yes	
(有識者 所見)					
3.施設、設備					
①施設設備の維持・管理					
A 定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。	Yes	Yes 月1回定期的なメンテナンスを行い、改修・改善箇所を把握している。	Yes	【課題】特になし 【改善策】
B 改修・保全	改修・保全が行われているか。	Yes	Yes 改修・改善計画を策定し、計画的にまた随時改修・改善を行った。	Yes	
C 安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。	Yes	Yes 展示場、収蔵施設、教育普及施設等の安全点検を毎月実施し報告し、安全衛生委員会や館内会議で館内に周知するとともに対策を検討している。	Yes	
(有識者 所見)					
②アメニティーの向上					
A バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策、万人に対応した受け入れ態勢がとられているか	Yes	Yes 館敷地内動線、出入口、1・2階の入館者立入り部分は段差がなく、1・2階の移動にはエレベータ・エスカレータを利用し身障者用トイレ及び乳幼児のためのベビーベッドを整備している。館内貸出用の車いす・ベビーカーを用意し設備とともに利用の案内をしている。	Yes	【課題】特になし 【改善策】
B アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか	Yes	Yes アクセスの案内については、HPに画像を添えてアップしている。	Yes	
C ミュージアムショップ	商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客等が満足できるかどうか、また、アンケート調査等で来館者ニーズを把握しているか	Yes	Yes 財団法人千葉県教育振興財団が運営している。入館者から寄せられた科学関連の商品のニーズに関しては、財団に伝え販売実現に向けて依頼した。また、イベントに関連した商品陳列を依頼した。	Yes	
(有識者 所見)					
4.財源					
①予算の確保					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 入場料収入	当初入場料収入計画 に対する実際の入場 料収入の達成率はどう であったか	8,161千円 (予算要求時)	6,847千円(前年度比60.7%)。目標値を下 回った。	12,187千円 (予算要求時)	【課題】収入の前年度比落ち込みを 挽回する。 【改善案】企画展プラネタリウム上映会 および特別展「飛べ！大空に」を成 功させる。
	B その他の収入	その他の事業収入はど うであったか	1,266千円 (予算要求時)	1,164千円(前年度比81.7%)。目標値を下 回った。	1,215千円 (予算要求時)	
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②館独自の財源獲得					
A 外部助成金等の獲得	外部助成金等を獲得しているか	採択件数の増加を目指します。	Yes 2件 1,202千円 ・全国博物館助成380千円(企画展資料制作委託他) ・JST科学技術コミュニケーション活動助成822千円(エネ学教室 エネルギーについて学ぼう)	採択件数の増加を目指します。	【課題】特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
5.収集, 保存及び活用					
①資料収集					
A コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	Yes	Yes 資料収集に関する基本方針に基づき手続きを行い, 法令等の遵守に努めている。	Yes	【課題】 特になし 【改善案】
B 寄託・寄付・購入点数	寄託・寄付・購入件数は何件・何点か	前年度並みの点数を目指します。	①寄託 5件297点(H24:0点) ②寄付 1,414点 (H24:39点) ③購入 77点 (H24:0点) (開館以来の累計)	前年度並みの点数を目指します。	【課題】 購入等予算の確保 【改善案】外部助成金の獲得等を進める。(ただし備品等の購入に使用可能な補助金がきわめて少ないのが現状である。)
(有識者 所見)					
②資料保存					
A 保存処理	資料の保存処理が行われているか	Yes	No 24年度は収蔵資料の修復はなかった。	Yes	【課題】 予算の確保。具体的な修復計画の作成。 【改善案】 予算の範囲内で可能な限り修理を行い, 実験装置の稼働や動く実物の保存を通し展示資料の活用に努める。
B 修復	資料の修復作業が行われているか	Yes		Yes	
C 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	Yes	Yes 定期的な維持管理を行った。また, 収蔵庫に関しては温・湿度記録を定期的にチェックし管理を徹底した。	Yes	
(有識者 所見)					
③資料管理					
A 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か	-	2,493点 (H24:47点) (開館以来の累計)	-	【課題】 特になし 【改善案】
B 登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか	100%	100% 受入と同時に登録した。	100%	
(有識者 所見)					
④資料活用					
A 貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	Yes	Yes 実物資料貸与件数3件(24年度分)	Yes	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
⑤一般図書管理					
A 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か	-	収蔵冊数15,245冊 (H23寄付受入:49冊)	-	【課題】 特になし
(有識者 所見)					
6.調査・研究					
①調査事業					
A 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	Yes(7件)	Yes(研究報告6件) これらは, 研究報告成果としてHPで公開している。その他, 各自が使命に基づいた研究テーマを設定し調査・研究を行った。	Yes(7件)	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②外部との調査・研究					
A 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	Yes(2件)	Yes(0件)	No(0件)	【課題】 外部と共同研究が可能なベテラン学芸員の確保 【改善案】 若手・中堅職員について, 現在短期間で異動する職員人事を是正してもらうよう主務課に依頼する。
(有識者 所見)					
③研究成果の発表					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	Yes(7件)	Yes(7件) 展示及び学習・見学方法に関する研究を実施し常設展・企画展に反映させた。	Yes(7件)	【課題】 特になし 【改善策】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
7. 展示					
① 常設展示					
A 展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	Yes	Yes エレキテル模型貸出用キット、探査機「はやぶさ」模型・多関節ロボット、VICSSジオラマ(借用)を追加展示した。また、エントランスホールで入ってきた入館者に科学館であることを感じていただき常設展示場へ誘導するため、収蔵資料等を活用し順次「電気自動車」「スバル360」「距離センサー」「金環日食のしくみ」「浮かぶ地球模型」「逆遠近錯視」「エイムズの窓」などを展示した。また、ドームギャラリーを活用した収蔵資料展示を6回行った。	Yes 新規展示資料の寄付受入や借用に努める。 エントランスホールやドームギャラリーの展示を継続して実施する。	【課題】 効率的な情報収集。予算の確保。 【改善案】 中長期的な計画にたつて科学技術に関する最新の情報が提供できるように計画する。 展示・運営協力会やそれ以外の企業などへの調査活動・展示資料の提供依頼などを計画的に進めていく。 展示場の大型装置の修繕維持計画を作成し予算化に努める。
B 展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	Yes	Yes 予算の範囲で保守・管理を実施した。常設展示保守点検業務、展示映像機器保守点検業務、電力シアター保守点検、鉄鋼シアター保守点検、川鉄千葉1号高炉模型保守点検、液体窒素製造装置保守点検、電子顕微鏡保守点検、炎色反応実験装置保守点検の年間契約を結び、延べ約50回の点検を実施した。その他、「のぼる波」「ウォーターロケット」のワイヤー交換を行った。 放電実験室の実験用電極を昇降させるモーターが2台故障し実験が実施できなくなった。補正予算協議を行い、修理を実施し稼働可能となった。また、同様に予算協議により、開館以来使用していた「うずまき」「のぼる波」「ポップリング」のシーケンサー交換修繕及び「ウォーターロケット」「うずまき」「ガリバーのストロー」の電磁弁交換修繕を実施した。	Yes 継続して、保守点検契約の予算要求を行う。 未交換修繕の放電実験室昇降モーター、実験装置内部品(シーケンサー、電磁弁、コンプレッサー、好奇心の門稼働部等)交換修繕の予算要求を実施し、年度内に予算調整で実施できるものは執行する。	
C 満足度	来館者が常設展示に満足しているか	満足度のアップを目指します。	Yes 通年で実施している来所者アンケートでは、主に苦情・要望を受け付けているが、常設展示については、「壊れた展示物を早く直してほしい」などのほか、特に苦情・要望はなかった。そのほか、6月に臨時にアンケートを実施し122件の回答を得たが、うち常設展について「大変満足」「満足」が併せて115件であった。	満足度のアップを目指します。	
		(有識者 所見) 入場者数に対し、回答数が少なすぎると思うので、回答率を上げる工夫をしてほしい。			
② 企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
A 入場者情報(数・年齢・地域など)	入場者の動向把握を行っているか	Yes	○夏季企画展:総数8,302 ・小中2,624/高大186/一般3,877/高齢・幼児・障害1,614 ○秋季企画展:総数6,505 ・小中2,814/高大76/一般1,853/高齢・幼児・障害1,762 地域別入場者の動向把握はアンケート調査で行った。どちらも市川・船橋市方面で多数を占めている。	Yes	【課題】 特になし 【改善案】

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 満足度	来館者が企画展示に満足しているか	前年度並みの満足度を目指します。	夏季企画展のアンケート回答では「とてもおもしろい」と「おもしろい」をあわせて99%と、満足度は非常に高かった。また秋季企画展のアンケート回答でも「とてもおもしろい」と「おもしろい」をあわせて86%以上有り、こちらの満足度も非常に高かった。	前年度以上の「とてもおもしろい」の回答率を高めることを目指します。	
			(有識者 所見) 目標値指標の表現をもっと前向きにできないか。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
③出前展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、または展示の要望があったか	Yes	No 要望が無いため行ってない。	No 学習キットの利用促進、および出前講座の実施に重点を置いているため。	【課題】 要望に沿ったキット解説パネルの新規作成。職員の派遣スケジュール調整 【改善策】解説パネルは逐次改善する。職員は、他の業務とのバランスを考慮し派遣する。
B 満足度	利用者が満足しているか	—	—	—	
(有識者 所見)					
④他館との合同企画による展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、併せてネットワークを活用した企画であったか	Yes	No 実施しなかった。	No(0件) 合同企画に充てる予算の目途が立たないため	【課題】 特になし 【改善策】
B 満足度	来館者が満足しているか	—	—	—	
(有識者 所見)					
⑤企画展示(入場料を変更しない展示)					
A 展示企画数	何回展示企画を実施したか	—	Yes ○特設コーナー(2回) ・鬼高1丁目1番地 暮らしを豊かにした家電製品 ・宇宙飛行士訓練体験(ホワイトパズル、遠隔操縦体験)、宇宙メダカ ○ワークショップ(3回) ・スバル360と自動車整備工場の再現 ・自然にまなぶものづくりー昆虫の生態と展示を通して考えるー ・しげん&えねるぎー ○ドームギャラリー(6回) ・ミニ収蔵資料展「新収蔵資料紹介(カメラ等)」2 ・ふしぎな錯視体験(錯視関係資料)2 ・メガスターへの道 ・パーソナルになったコンピューター ○エントランスホール(1回) ・千葉県の産業遺産とその活用を考える	Yes 収蔵資料の紹介や企画展で紹介した内容・資料の再展示など、同様に継続して企画・実施していく。	【課題】 広報宣伝予算の確保 【改善策】 インターネット等を活用した、経費のかからない広報活動の促進
B 満足度	来館者が満足しているか	—	入場者・見学者の反応・感想 ・古いテレビ、自動車など興味深く懐かしい様子で見学されていた。 ・夏休み期間中の昆虫の展示は生きている大型のものに家族・子どもが集中して見学していたが、昆虫の体の色(構造色)や超撥水性(蝶の羽)などその中にある科学については理解されにくかった。 ・企画展での体験展示(ホワイトパズル、風力発電等)の事後展示は、多くの子どもが参加・体験されていた。	並行して大掛かりな事業をしている中であるので、その中で簡便に満足度を高める方法を考えていく。 わかりやすい科学的な解説に努める。	
(有識者 所見) 課題と改善案に何かを記すべきではないか。(館側の補足:ヒアリング時には「特になし」としていた。)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
A 体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか	210回	187回(前年度比+20回) 区分としては、実験工作・体験教室(129回)、サイエンスショー(7回)、講座(21回)、乗車会(12回)、上映会(2回)、イベント(13回)、コンサート(3回)である。また、成人一般を対象にした講座(千葉県の産業遺産とその活用について)を実施した。講義5回、巡検3回の計8回開いた。	200回	【課題】 現在実施している体験学習等のメニューの見直し 【改善案】 過去に実施した工作教室のメニューを再調査し、リメイク、リニューアルが可能なものを選び起こす。また、実施報告書から、改善点をリストアップし、次回につなげる。
B 体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	27,000名	20,078名(前年度比-13,589名) < 実験工作・体験教室(5,681)/サイエンスショー(514)/一般対象講座(135)/プラネタリウム上映会(9,080)/他(4,668)>	25,000名	【課題】 リピーターの確保 【改善案】 参加者にアンケート調査を依頼するとともに、次回(今後)の各種教室等の案内も行う。
C 満足度	参加者は満足しているか	満足度80%	事業のアンケートからは、「大人も子どもも楽しめた」「実験がとても楽しかった」等、参加者の満足度は非常に高かった。	満足度80%	【課題】 ニーズの把握 【改善案】 アンケート結果を分析し、時期や回数などについて、次年度の参考資料とする。
(有識者 所見)					
②講演会					
A 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか	4回	4回 展示・運営協力会講演会、いちかわ産フェスタ講演会、日本非破壊検査協会講演会、千葉県東葛・ベイエリアビジネスプラン発表会	4回	【課題】 社会的関心に合致するようなタイムリーな講演会の実施 【改善案】 科学や先端技術、産業に係わる情報や社会的関心などを常に注意し、実施可能なテーマを探る。
B 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か	1,000名	416名	1,000名	【課題】 参加者数の偏り 【改善案】 タイムリーな広報に努める。
C 満足度	参加者は満足しているか	満足度80%	参加者も多く盛況で、途中退場者も少なかったことから、満足度も高かったと思われる。	満足度80%	【課題】 ニーズの把握 【改善案】 出口調査を実施し、参加者の声からも、今後の講演会の内容についての参考意見を集約する。
(有識者 所見)					
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A 電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか。	Yes	Yes 共通する質問についてはその回答を共有し職員誰でもが対応できるよう努めている。	Yes	【課題】 特になし 【改善案】
B メールマガジン	メールマガジンによる情報発信を行っているか。	Yes	Yes 月ごとにタイムリーな情報を発信した。メールマガジン購読者数は平成25年3月31日現在で1,043名。	Yes	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②メディアへの情報発信					
A 発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	Yes(情報発信100件)	Yes 120件以上 メディアへの情報提供は展示会やイベント毎に行っている。常時28箇所情報提供を行っている。	Yes(情報発信100件)	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
③ホームページによる広報					
A ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数はどのくらいか、資料検索システムの登録件数はどのくらいか	更新回数90回 アクセス前年度並みの件数指します。	更新173回 アクセス109,042件(前年度比+12,947件、約14%増) およそ2日に1回のごまめな更新で新しい情報提供が増加につながったと考える。	更新回数100回 アクセス件数については前年度並みの件数指します。	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
④印刷物の刊行					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	Yes 13種	Yes 13種(外注分のみ)。その他、印刷機を用いた手作りチラシ等は、事業毎に適宜作成し、情報提供を行っている。	Yes 13種	【課題】 顔の見える広報 【改善策】 一方的に送りつけるのではなく、出張講座や研修会に際しては、チラシを携帯し配布に努める。
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
⑤図書室の公開					
A 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	Yes	Yes 子ども向け図書, 一般・専門書籍を配架し開館時間内は自由に閲覧することができ必要に応じて職員が対応している。	Yes	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
10. 県民参画					
①県民との協働					
A ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	Yes 28人	Yes(登録32人(前年度比+4人)) 当館のボランティアは、①展示補助、②図書・資料整理、③教育普及(工作教室補助・イベント補助等)の三つを担当している。平成24年度は371件(前年度比±0件)の業務にあたり、3か月ごとに担当業務と活動希望との調整を図り、効果的に進められるよう努めている。	Yes 28人	【課題】特になし 【改善策】
B 県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	Yes	Yes 各種の講座に参加される県民との交流を通して協働による情報収集に努めている。	Yes	【課題】 ニーズの把握 【改善策】 アンケート調査により、情報収集に努める。
C 友の会	友の会活動が効果的に行われているか	—	休会中	—	【課題】今後のあり方 【改善策】休会に至る経緯の整理及び現時点における問題点、課題等の抽出・検討を行う。
		(有識者 所見)			
②NPO・外部機関との連携・調査					
A NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査システム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	Yes(6件)	Yes(8件) NPOバイオプラザ21(3) 非破壊検査協会(2) (独)宇宙航空研究開発機構(3) 日本鉄鋼連盟(1)	Yes(6件)	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
11. 人材育成					
①博物館実習					
A 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか	前年度並みの実施	Yes(実施人数9校11人(前年度比+2)) 学芸員資格取得のため実習生を受け入れた。	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
②教員等研修					
A 教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	前年度並みの実施	Yes(5回607名(前年度比-9回,-49名) 申込みがあったものは全て対応した。	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
③職場体験学習・インターンシップ					
A 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	前年度並みの実施	Yes 体験・訪問:23校85名(+2校/+9名) インターンシップ:2校3名(-1校/-1名)	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			
④ボランティア育成					
A ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	前年度並みの実施	Yes(新規登録者対象1回6名) 全登録者を対象に、イベント補助・工作教室補助を担当する際には、必ず、事前試作と留意点についての説明を実施している。また、図書整理のボランティアは、少数で限定されるため、活動日には必ず作業内容の指示と進捗状況についての確認を行っている。	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善策】
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
12. 県民等からの依頼による学習支援					
① 常設展示・企画展示等の活用					
A. 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	前年度並みの実施を目指します。	Yes 解説ツアーは団体見学の要望に同じ56回1,957名参加した。なお、団体申込受付にあたり必ず解説ツアーの希望の有無について確認している。(前年度比-2回,+293名) 解説タイムは一般入館者対応で平日2回、土日祝日1回、計485回1,475名(前年度比+247回-1,261名)参加した。またジームスタイルを土日祝日に1回実施し、124回1450名参加した。(前年度比+42回,+767名)	前年度並みの実施を目指します。	【課題】特になし 【改善案】
B. 「授業に役立つ博物館」プロジェクトの学習キット貸出し	希望に応じた貸出しを行っているか	Yes 30件、5,000名	Yes 合同企画事業「授業に役立つ県立博物館」プロジェクトで貸出学習キットを企画制作し、利用者向けの合同展示・説明会を含め、計38カ所8,887名の利用があった。種別は、ソーラークッカー18件、エレキテル11件圧電発電9件。内容の区分としては、貸出16件、事業での演説・体験7件、説明等のPR3件であった。利用者の実施報告書を見ると、「太陽光で調理ができることに驚いた」「興味を持った」「簡単にできた」など、満足度は非常に高かった。	Yes 30件、5,000名	【課題】 キットの性質上、天候や季節により実験結果が左右される。 ・広報の充実 【改善案】 可能な限り予備日を設定し、貸出期間を延長する。 ・近隣の学校でも存在そのものを知らないという声があったので、改めて、より積極的な広報活動を実施する。
(有識者 所見)					
② 館内における講座・講演会活動					
A 講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	Yes	No	Yes	【課題】 特になし 【改善案】 館事業に支障のない範囲で対応する。
B 講座の回数・人数		Yes	No	Yes	
(有識者 所見)					
③ 学校連携事業					
A 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	前年度並みの実施	Yes(109学校団体(前年度比-35校)種別では、小学校75、中学校4、高校7、大学6、特別支援学校17、幼稚園34)	前年度並みの実施	【課題】 校種の偏り 【改善案】 職場体験等で交流のある中学校には、利用のメリットについて積極的に情報提供する。
B 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	前年度並みの実施	Yes(13回817名<前年度比+2回+152名)要望に対応した。種別では、学校関係4、社会教育施設9であった。	前年度並みの実施	【課題】 担当者の負担増 【改善案】 複数の職員でチームを作り、偏りが生じないように対応する。
(有識者 所見) 学校団体の利用が少ないようなので、抜本的な対策が必要ではないか。					
④ 外部依頼講師(大学、行政研修会など他組織)					
A 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか	前年度並みの実施	Yes(15件790名(前年度比-6件-48名)小中学校3、大学1、社会教育施設10、教育機関1)	前年度並みの実施	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
13. 地域づくりへの支援					
① 地域との連携事業					
A 社会教育機関・地域住民等との連携	連携事業を行っているか	Yes 60件	Yes 市川工業高校、展示・運営協力会、地元商工会議所、地元自治体、県商工労働部、県教育振興財団等との連携事業59件、参加者数193,811名(前年度比+3件+305名)。いずれも参加者が多かった。	Yes 60件	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
② 観光資源としての活用					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立現代産業科学館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか(団体数で把握)	前年度並みの団体数を目指します。	Yes 地域別:東京36,神奈川1,茨城1,埼玉3,インドネシア1,韓国3,計45団体1,588名(前年度比-18団体-189名) 種別:小(2),高(2),大(1),特支(3),学童・子供会(9),障害(10),幼保(8),一般(5)	前年度並みの団体数を目指します。	【課題】 利用促進 【改善案】引き続き、隣接する東京都の江戸川区、葛飾区には、定期的な情報発信に努める。
	B 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか	前年度並みの入場者数を目指します。	436名(前年度比+288名)	前年度並みの入場者数を目指します。	
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
A 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか		Yes 千葉県立博物館及び千葉県立関宿城博物館の使命は、エントランスホールに掲示し、ホームページで公開している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
A 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。		Yes 全職員の共通理解を図りながら、年度ごとに事業計画を構築し、事業を実施している。	継続実施	【課題】 博物館運営の充実と諸経費の確保。 【改善案】 少人数、少ない予算で博物館事業を展開しなければならないことから、職員同士の共通理解を図りながら、学芸課・庶務課協働で運営していく。
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
A 自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか		Yes 個々の部署において、随時改善策を検討し、向上に努めている。	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
B 外部評価	外部評価委員会による外部評価を行っているか		Yes 外部評価委員会による評価を受けている。	継続実施	
C 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか		Yes 指摘事項・評価について、事業活動・業務運営に反映させている。	継続実施	
D 評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。		Yes 定期的に見直しを図っている。	継続実施	
		(有識者 所見)			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか。	訓練2回 実施	Yes 平成24年度マニュアル完備 12/10不審者対応訓練実施 12/10消防・避難訓練実施	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
B 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか。		Yes 適切に管理している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
C 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。		Yes 当館の事業に支障のない範囲で、可能な限り積極的に参加している。 ・関東博物館協会研究会研修 ・遺跡調査研究発表会 ・千葉県博物館協会研修	継続実施	【課題】 研修内容の共有化。 【改善案】 全体会議で研修内容が報告できるように、時間を確保する。
		(有識者 所見)			
②県民ニーズに則した運営					
A 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか。	平成23年度を上回る入館者数	入館者数 103,121人 個人 98,214人 (一般 77,186/高大505/中以下 20,523) 団体 128団体 4,907人 <参考:平成23年度> 入館者数 107,988人 個人 102,292人 (一般 80,250/高大442/中以下21,600) 団体 138団体 5,696人	平成24年度を上回る入館者数	【課題】 入場者数の減少。 【改善案】 例年、多くの入館者が見込める「関宿城まつり」において、今年度は雨天のため人手が少なかったことにより、入館者数の減少に大きく影響を及ぼした。しかし、日々の入館者増を図るため、今後も当館の魅力をホームページ等で発信し続ける。また、効果的な広報手段を検討し、実践する。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 利用者満足度・ ニーズなどマーケ ティング調査	マーケティング調査(含 むアンケート調査)を 行っているか。		Yes アンケート調査を実施している。	継続実施	【課題】アンケート結果の分析と実 践。 【改善策】アンケートの結果を検証 し、改善策を講じる。特に、直ぐに改 善できる要望については、時間をお かずに改善する。
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
③情報公開					
A 使命・目標・計画 などの方針公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	Yes	Yes 使命をエントランスに掲示し、さらにホームページにも掲載している。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
B 評価結果の公開			Yes ホームページに載し、情報を公開している。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
3.施設, 設備					
①施設設備の維持・管理					
A 定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。		Yes 各種定期点検を実施している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 改修・保全	改修・保全が行われているか。		Yes 予算要求のほか、軽微なものはその場で対応している。特に来館者からの意見のあった箇所については、迅速な対応に努めている。	継続実施	【課題】 施設やビジュアルなど設備の老朽化が進んでいる。 【改善案】 予算要求を引き続き行い、確保する。
C 安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。		Yes 日常点検及び清掃を徹底している。	継続実施	
(有識者 所見)					
②アメニティーの向上					
A バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策、万人に対応した受け入れ態勢がとられているか		Yes エレベーター、スロープ、車いす、ベビーカー、車いす用トイレを設置している。	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
B アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか		Yes バス(3系統)運行、駐車場完備、案内表示の設置などをホームページで案内している。また、インターネットを利用できない人には、ファクスなどで対応している。	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
C ミュージアムショップ	商品の質・数・料金・管理・迅速さ・接客等が満足できるかどうか、またアンケート調査等で来館者ニーズを把握しているか		Yes 売店の利用者には好評である。	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
(有識者 所見)					
4.財源					
①予算の確保					
A 入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうかであったか	前年度比100%	達成率:98%	達成率:100%	【課題】 有料入場者の拡大。 【改善案】 家族ぐるみの入場者拡大のため、館内に子供が楽しめるクイズ形式のゲームを設けたり、子供たちに分かる展示パネルを設置する。
B その他の収入	その他の事業収入はどうかであったか	前年度比100%	達成率:100%	達成率:100%	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②館独自の財源獲得					
A 外部助成金等の獲得	外部助成金等を獲得しているか	1件	Yes 2件申請し、2件獲得した。	1件	【課題】 企画展において1件の外部助成を得ているが、毎年同じ助成金等支援団体に助成を受けているので長期化になり、助成の条件が厳しい状況になっている。 【改善案】 助成団体の担当者と連絡を密にし、相談しながら助成の条件をクリアしていく。一方で、ほかの助成金等支援団体を探し、助成金の獲得に努める。
(有識者 所見)					
5.収集, 保存及び活用					
①資料収集					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	Yes or No	Yes 法令等の遵守に勤めている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
	B 寄託・寄付・購入 点数	寄託・寄付・購入件数 は何件・何点か		寄託件数0件, 累計26,310点 寄付件数5件, 累計1,093点 購入0件, 累計699点		【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②資料保存					
A 保存処理	資料の保存処理が行われているか	Yes or No	No 今年度未実施		【課題】 刀剣類の定期的な手入れ。 【改善案】 職員が刀剣類取扱いの研修を受け、手入れを行う。または、刀剣類の手入れができる職員を配置する。
B 修復	資料の修復作業が行われているか	Yes or No	No 今年度未実施		【課題】 予算の確保。 【改善策】 継続的に予算要求をする。
C 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	Yes or No	Yes 温湿度の日常点検を実施している。	継続実施	【課題】 有害薬品を使用する燻蒸施設のため、資料を燻蒸できない状況にある。 【改善策】 外部委託による燻蒸が実施できるよう、継続的に予算要求する。
(有識者 所見)					
③資料管理					
A 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か		・2,096件、28,212点の収蔵資料(文書・美術工芸・民俗・写真絵葉書等)と整理箱40箱の考古資料	継続実施	【課題】 資料の増加に伴い、収蔵庫内の機能的な収納と管理。 【改善策】 継続的に資料整理し、収蔵棚の有効活用を図る。
B 登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか		Yes 寄付資料5点、寄託資料1点の資料整理を実施した。	継続実施	【課題】 全収蔵資料のカード化および目録の作成。 【改善策】 資料整理のためのボランティアを募って人員を確保し、継続的な資料整理を行う。
(有識者 所見)					
④資料活用					
A 貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	Yes or No	Yes 実物資料 13件 写真資料 30件	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
⑤一般図書管理					
A 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か		8,931冊(H23は8,452冊)	継続実施	【課題】 図書の増加に伴い、収蔵場所の確保。 【改善策】 機能的な整理・分類を行うことによって効率的な収納を図る。
(有識者 所見)					
6.調査・研究					
①調査事業					
A 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	7件	8件 職員及び当館展示協力員が各自でテーマを設定し、使命に基づいた調査・研究を行っている。	継続実施	【課題】 職員と当館展示協力員の共同調査および共同研究。 【改善策】 当館展示協力員会議において、職員と展示協力員が共同で実施できるようなテーマを決め、連携して調査・研究を行う。
(有識者 所見)					
②外部との調査・研究					
A 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか		NO 今年度未実施		【課題】 外部団体などとの共同研究。 【改善策】 今後、外部団体などと共同して調査・研究を行う環境をつくり、ホームページ等で募る。
(有識者 所見)					
③研究成果の発表					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	Yes or No	4件 ①職員は、1年間調査・研究してきた成果を企画展「醤油を運んだ川の道」で反映した。 ②常設展の古文書を古文書研究会の会員が解説し、パネル展示に反映した。 ③展示協力員が研究成果を「研究報告」に掲載し、さらにそれを「博物館セミナー」で発表した。 ④古文書研究会が解説文を史料紹介として、「研究報告」に掲載した。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
7. 展示					
① 常設展示					
A 展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	6回	7回 2階の企画展示室では、ゴールデンウィークの期間を中心に「コーナー展」、秋期に「企画展」、冬期に「出土遺物巡回展」を開催し、3回展示替えをした。そのほか、3階の多目的室で4回展示替えをした。	7回	【課題】 特になし 【改善案】
B 展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	Yes	Yes 毎日、展示室の温度計・湿度計を点検し、展示資料の管理を行っている。	継続実施	【課題】 湿度の調節が自由に出来ない機械になっている。そのため、夏場は湿度が高く、冬場は湿度が低くなってしまう。 【改善策】 機械設備員と相談しながら応急処置を執る。また、湿度調節の方法を検討していく。
C 満足度	来館者が常設展示に満足しているか	アンケート実施	利用者動向調査アンケートを実施し、来館者の要望に応えるようにしている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
② 企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
A 入場者情報(数・年齢・地域など)	入場者の動向把握を行っているか		Yes 来館者にアンケート調査を実施し、動向を把握している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 満足度	来館者が企画展示に満足しているか	アンケート実施 5段階評価で4以上を8割	5段階評価で4以上 91%	5段階評価で4以上を8割	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
③ 出前展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、または展示の要望があったか	1回	5回 博物館・学校などにおいて学習キットを出前展示した。	6回	【課題】 利用者数が少ない。 【改善策】 近隣の小・中学校に、学習キットの貸出を積極的にPRする。
B 満足度	利用者が満足しているか		アンケート調査によると、利用者の100%が満足との回答を得た。	満足度アップを目指す	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
④ 他館との合同企画による展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、併せてネットワークを活用した企画であったか	1回	1回 出土遺物巡回展(公益財団法人千葉県教育振興財団)	1回	【課題】 他館との相互交流の機会設定。 【改善案】 近隣の博物館と情報交換を頻繁に行い、合同企画が実施できるような環境をつくる。
B 満足度	来館者が満足しているか	アンケート実施5段階評価で4以上を8割	5段階評価で4以上 91%	5段階評価で4以上を8割	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
⑤ 企画展示(入場料を変更しない展示)					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか	6回	9回 ・岩槻秀明グラフィックイラスト展 ・コーナー展「関宿藩にゆかりのある品々」 ・2012年国際博物館の日記念事業 昔の暮らし展 ・関宿城博物館の事業を知って楽しもう ・関宿城写真コンクール作品展 ・出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」 ・凧の競演 ・第13回関宿城百景写真展 ・地井紅雲版画展―白と黒の世界―	10回	【課題】 特になし 【改善案】

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 満足度	利用者が満足しているか	アンケート実施 5段階評価で4以上を8割	5段階評価で4以上 ・岩槻秀明グラフィックイラスト展 69% ・「関宿藩にゆかりのある品々」 84% ・昔のくらし展 88% ・関宿城博物館の事業を知って楽しもう 80% ・関宿城写真コンクール作品展 ・出土遺物巡回展 91% ・凧の競演 ・第13回関宿城百景写真展 87% ・地井紅雲版画展 84%	5段階評価で4以上を8割	【課題】 岩槻秀明グラフィックイラスト展が目標値に達しなかった。 【改善案】 昆虫のイラストをパソコンで描いた作品展であったが、対比する昆虫の写真が小さかったため、満足度が低かったと思われる。そこで、来年度は昆虫に興味・関心をもってもらう意味で、昆虫標本などを展示する「昆虫展」の開催を企画している。
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標指標	当該項目に関する課題と改善案
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
A 体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか	46回	47回 郷土食講座 ・そば打ち(6回)・81人 ・小麦まんじゅうづくり(4回)・83人 ・投網漁と川魚料理(1回)・19人 ・鷹菜漬け(4回)・10人 ・こんにゃくづくり(1回)・30人 体験教室 ・飛ばせ水ロケット(1回)・11人 ・自然観察(2回)・15人 ・版画年賀状教室(1回)・2人 ・関宿城新春たこあげ(1回)・346人 ・関宿城下を歩こう(6回)・48人 野外講座 ・歴史散歩(1回)・20人 歴史講座 ・古文書を読む(6回)・127人 ・醤油を運んだ川の道(1回)・33人 博物館セミナー ・博物館セミナー(7回)・156人 イベント ・将棋大会(2回)・130人 ・県民芸術劇場公演・54人 ・関宿城で初日の出を見よう・32人 ・関宿城さくらまつり・130人 ・関宿城まつり・6,000人	前年度並みの実施回数	【課題】 特になし 【改善案】
B 体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	定員の8割以上	【定員充足率】 郷土食講座 68% 体験教室 30% (「たこあげ」を除く) 野外講座 100% 歴史講座 94% 博物館セミナー 74% イベント 99% (「さくらまつり」・「関宿城まつり」を除く)	定員の8割以上	【課題】 体験教室の定員充足率が大幅に低かった。 【改善案】 体験教室は子供たちが参加できる事業が多いので、近隣の小学校に情報を発信する。
C 満足度	参加者は満足しているか	アンケート実施 5段階評価で4以上を8割	郷土食講座 ・そば打ち 95% ・小麦まんじゅうづくり 99% ・投網漁と川魚料理 100% ・鷹菜漬け 100% ・こんにゃくづくり 100% 体験教室 ・飛ばせ水ロケット ・自然観察 100% ・版画年賀状教室 100% ・関宿城新春たこあげ ・関宿城下を歩こう 98% 野外講座 ・歴史散歩 100% 歴史講座 ・古文書を読む 92% ・醤油を運んだ川の道 100% 博物館セミナー ・博物館セミナー 88%	5段階評価で4以上を8割	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②講演会					
A 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか		No	1回	【課題】 人的及び財政面において、講演会を実施するのは難しい。 【改善策】 企画展開連の歴史講座において実施する外部講師の講演を充実させ、中規模の講演会に位置づける。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か				
	C 満足度	参加者は満足しているか				
			(有識者 所見)			
9.情報の発信						
①県民への直接的情報提供						
	A 電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか	Yes or No	Yes 随時対応している	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②メディアへの情報発信					
A 発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	発信 34か所/月 掲載 200件/年	発信 34か所/月 掲載 457件/年	前年度並み	【課題】 上昇傾向を目指す。 【改善案】 件数等の充実はもとより、内容の充実も図る。
(有識者 所見)					
③ホームページによる広報					
A ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数ほどのくらいか、資料検索システムの登録件数ほどのくらいか	更新 100回/年 アクセス件数 5,000件/月 登録件数 前年度並	更新 220回/年(前年度 100回/年) 月平均アクセス件数 2,948件/月(前年度 2,680件/月) 登録件数 5,658件	更新回数 250回/年 アクセス数 3,000件/月 登録件数 前年度並	【課題】 アクセス件数が目標値より、大幅に下回っている。 【改善案】 当館のトップページにおいて更新の回数を増やし、展示事業の魅力を紹介する。
(有識者 所見) ホームページについて、アクセス数が少ないのは何故か?アクセス数を増やすためには、どうしたらよいかを考える必要がある。					
④印刷物の刊行					
A 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	Yes or No ポスター・チラシ回数 2回	ポスター・チラシ 2回 ・年間計画啓発用 ・企画展用	継続実施	【課題】 配布先の検討。 【改善案】 アンケートによる利用者の動向を検証し、効果的な情報提供を図る。
(有識者 所見)					
⑤図書室の公開					
A 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	Yes or No	Yes 図書担当を決め、いつでも閲覧できる体制を整えている。	継続実施	【課題】 図書閲覧の利用者が少ない。 【改善案】 図書の閲覧ができることをホームページ等で紹介するとともに、友の会会員には図書の貸出も可能であることを告知する。
(有識者 所見)					
10. 県民参画					
①県民との協働					
A ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	Yes or No	Yes 展示解説員:常設展示室の展示物を説明。 資料整理員:古文書の整理及び解説。 郷土食指導員:郷土食講座「そば打ち」の講師。 古文書研究会員:古文書の解説と、歴史講座「古文書を読む」の講師。 昔の道具体験指導員:展覧会「昔のくらし展」の展示物を説明。 英訳員:展示解説書などの英訳。	継続実施	【課題】 展示解説員は高齢で一人しかいないので、人材を募集し、育成する必要がある。 【改善案】 友の会会員に展示解説員を募ったり、ホームページ等で公募し、育成する。
B 県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	Yes or No	Yes 不定期に電話又はチラシなどによる情報提供がある。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②NPO・外部機関との連携・調査					
A NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	Yes or No	Yes 当館主催の「関宿城将棋大会」において、日本将棋連盟関根金次郎支部と連携している。 野田市関宿商工会と連携し、町おこしとして「関宿城まつり」を開催している。 NPO法人野田ガイドの会に、団体を当館まで案内してもらっている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
11. 人材育成					
①博物館実習					
A 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか		Yes 7月19日～27日 ・実習生(川村学園女子大学・立正大学) 2人	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
		(有識者 所見)			
②教員等研修					
A 教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	Yes	No	継続実施	【課題】 学校への情報不足。 【改善案】 当館が教員研修の場として受け入れていることを、教育委員会または学校に周知する。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
③職場体験学習・インターンシップ					
A 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	前年度並みの受け入れ	Yes 職場体験 6月19-21日(市立二川中学校)延4人 <6月20日は台風の影響により中止> 9月4-5日(市立関宿中学校)延2人 インターンシップ 8月7-9日(県立柏中央高校)延6人 8月7-9日(県立松戸高校)延3人 11月7-8日(県立関宿高校)延10人	前年度並みの受け入れ	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
④ボランティア育成					
A ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	Yes or No	Yes 古文書研究会:19回 延べ101人 郷土食指導員: 6回 延べ 9人	継続実施	【課題】 多くの登録者は高齢のため、補充が必要である。 【改善策】 継続的にホームページ等で公募したり、友の会にボランティアの協力を依頼し補充する。
(有識者 所見)					
12. 県民等からの依頼による学習支援					
①常設展示・企画展示等の活用					
A 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	解説会 ・3回 150人 団体説明 ・100団体3,500人	解説会 ・グラフィックイラスト展 2回 26人 ・企画展 2回 99人 ・出土遺物巡回展 1回 28人 団体説明 ・98団体 2,962人	解説会 ・6回 ・160人 団体説明 ・100団体 ・3,000人	【課題】 展示解説を実施した団体数が目標値に達していなかった。 【改善案】 団体見学の予約を受け付けるときに、余裕のある見学時間を設定してもらい、展示解説があることをPRする。
(有識者 所見)					
②館内における講座・講演会活動					
A 講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	14回 定員の8割以上	歴史講座「醤油を運んだ川の道」 (定員50)1回 参加33人(66%) 歴史講座「古文書を読む」 (定員120)6回参加127人(106%) 博物館セミナー (定員210)7回 参加156人(72%) 野外講座「川の歴史散歩」 (定員20)1回 参加20人(100%)	15回 定員の8割以上	【課題】 参加者が定員の8割に達しない講座がある。 【改善案】 情報誌を発行している会社に講座の内容を提供し、より多くの情報誌に掲載してもらうよう依頼する。また、友の会の会員に毎月1回のペースで情報を提供する。
(有識者 所見)					
③学校連携事業					
A 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	10校 1,300人	総数 24校 1,452人 小学校 17校 1,195人 中学校 2校 89人 高等学校 1校 19人 大学 4校 149人	25校 1,500人	【課題】 中学校と高等学校の見学が少ない。 【改善案】 東葛地区の中学校(社会科担当教員)へ学習支援プログラムのワークシートを配布し、問題解決型の見学ができることをPRする。
B 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	5件 500人	千葉県立関宿高等学校 110人	2件 200人	【課題】 小・中学校からの依頼がない。 【改善案】 学習キットを使った出前授業の受け入れをPRし、学習キットの貸出とともに活用実績を増やしていく。
(有識者 所見)					
④外部依頼講師(大学、行政研修会など他組織)					
A 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか	5回 300人	5回 410人 ・県生涯大学校東葛師学園江戸川台校舎 3回 232人 ・県生涯大学校東葛師学園浅間台校舎 1回 148人 ・(財)いきいき埼玉彩の国いきがい大学 春日部学園 1回 30人	6回 500人	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
13. 地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 社会教育機関・ 地域住民等との 連携	連携事業を行っている か	1事業 10,000人	「第14回関宿城将棋大会」 日本将棋連盟関根金次郎支部 大人の部:64人/子どもの部:66人 「第5回関宿城さくらまつり」 野田市関宿商工会青年部 7,000人 「第17回関宿城まつり」 野田市関宿商工会 6,000人	2事業 20,000人	【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立関宿城博物館

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②観光資源としての活用					
A 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか	55団体	61団体 ・埼玉県 22団体 ・茨城県 22団体 ・東京都 11団体 ・栃木県 4団体 ・群馬県 2団体	65団体	【課題】 更なる県外の見学団体の増加。 【改善案】 観光会社に当館の案内パンフレットや啓発用チラシを置かせてもらい、団体旅行を計画している人たちに当館の魅力をPRする。
B 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか	平成23年度を上回る入場者数	入場者数 219人(昨年度より54人の増加)	平成24年度を上回る入場者数	【課題】 外国人の入場者増を図る。 【改善案】 新たに外国人用パンフレットを作成したので、効果的に広報用として活用する。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
1.使命と計画					
①使命					
A 使命の明文化	県博使命及び当館使命を明文化し掲示しているか		Yes 総合案内所と資料館受付、ホームページで公開しているほか、概要や年報にも掲載している。	継続して周知を図る	【課題】 特になし 【改善案】
B 使命の認識	館の使命を職員が認識して業務を行っているか		Yes 館職員(事業課・管理課)へのアンケートの結果100%がYes 各職員が、運営上判断に迷う場合の基準として機能している。	継続して周知を図る	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②中長期計画					
A 13の大項目の目標設定の有無と、具体的計画及び重点事業の構築	各大項目の目標を中長期のスパンで設定し、具体的計画を策定しているか。		①事業等の年次計画 Yes ②事業等の優先順位 Yes ③スケジュール化し予算要求 Yes ④事業実施 Yes ・指定管理新規事業5カ年計画に基づき、事業を確実に実行している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B その後の事業への活用	中長期計画の目標値への達成状況をその後の事業に活用しているか		5. よく活用している 指定管理制度の5ヶ年計画を基に事業を遂行している。来年度5ヶ年最終年にあたるため、これまでの事業見直しと、次期計画策定を進めている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
③評価の実施					
A 自己評価(事業活動および業務運営)	自己評価を行っているか		Yes 自己評価はチャレンジプログラム及び、本事業のための館独自のチェック票にて行っている。	継続実施	【課題】 第二期評価事業の実施と継続的な手法等の見直し。 【改善案】 評価検討会及び外部評価委員会等において、恒常的に協議し、見直しを具現化する。
B 外部評価	外部評価委員会による外部評価を行っているか		Yes アドバイザー会議や外部評価委員により実施。	継続実施	
C 評価の反映	上記の各評価が各館使命に基づくPDCAサイクルに反映されているか		Yes 事業実施記録に基づいて事業に反映させている。	継続実施	
D 評価方法及び評価項目等の見直し	評価方法及び評価項目等に関して、定期的な見直しを図っているか。		Yes 毎年、評価担当者が中心となって行っている。	継続実施	
		(有識者 所見)			
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A 危機管理・防災体制	危機管理・防災体制が組織的(マニュアルの作成及び実地訓練等)に行われているか。		Yes 危機管理マニュアルを作成し、防災訓練を年1度実施。東日本大震災をふまえて、例年文化財防火デーに行っている防災訓練のほかに、3月11日前後に各施設で避難誘導経路の再確認作業を実施した。	継続実施	【課題】 県立博物館全体、県内博物館全体、行政等を一体とした体制づくりが必要。 【改善案】 県博協を中心に「千葉県文化財救済ネットワークシステム」を構築し、組織強化を推進。
B 個人情報の管理	個人情報に関するデータ管理が行われているか。		Yes 年度毎に体験者などの個人情報を破棄するよう、徹底している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
C 職員研修	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関等の研修に対し、博物館職員が積極的に参加できる体制がとられているか。		Yes 業務の都合で参加できない場合を除き、各種研修会へは積極的に参加する体制をとっている。また、研修修了者による館内部での伝達講習会などを適時、効率よく実施している。	継続実施	【課題】 特になし。研修内容や成果については、研修者が報告書の形にまとめ、復命書の形で館職員に回覧し、知識の共有を図っている

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	D 年休や特別休暇の消化	職員等(職員及び期間雇用職員)が年休や特別休暇を取れているか		Yes 技術員、時間雇用職員の年休消化率はほぼ100%。それ以外については職員間で調整しているが、行事が多いため充分消化されていない。		【課題】 職員の休暇取得率の向上。 【改善案】 積極的な取得を心がける。
	E 時間外勤務	職員の時間外勤務が異常に多くなっていないか		No 但し特定の時期や分掌事務により負担が偏る傾向はある。特にイベント開催時や予算編成時などに集中。		【課題】 業務内容上、勤務が集中する時期があるのは避けられない。 【改善案】
	F 館の活動全体に関する研修	職員等に対して、館の活動全体に関する研修を行っているか		Yes 館全体の職員研修会を毎月一回行っている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見) 外部研修会への参加や、内部での自主的な職員研修はよく行われているようで、評価できる。			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
②県民ニーズに則した運営					
A 利用者数	当該年度の利用者数は何人であったか。	前年度比105%	①総数:278,401(累計:6,006,100) 個230,149/団:714団体48,252 般82,334/高大3,456/学齢前14,517/小中87,623/高齢85,562/障害:4,909 体験:140,129/HPアクセス:280,734件/ 資料閲覧:15件 ②総数(99%) 個(101%)/団体数(89%)人数(90%) 般(98%)/高大(132%)/学齢前(115%)/小中(91%)/高齢(109%)/障害(113%) 体験(96%)/HPアクセス(126%)/資料閲覧(115%) 小学校の団体が減少した他は、目立った変化は見られない。年回7回実施するまつりの際、悪天候が多く、入館者数が伸びなかった。	①総入館者数28万人・参加体験事業参加者総数15万人	【課題】 博物館利用者の拡充。特に広報が課題。 【改善案】 マスコミなどへの情報提供や広告掲載等に更なる力を入れ、周知を図る。
B 利用者満足度・ニーズなどマーケティング調査	マーケティング調査(含むアンケート調査)を行っているか。		入館者に対し、アンケート及び意見等の調査を実施。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】 若手の職員による、新しい視点に基づいた調査法を工夫していきたい。
C ホームページなどでの調査	ホームページなどで広く県民の意見を聞いているか		Yes ホームページのブログから、直接閲覧者がコメントを投稿できる体制となっている。	継続実施	【課題】 ブログ上の意見への対応 【改善案】 ブログ上でその都度対話形式により対応する。
D アンケート調査結果の反映	アンケート調査などの結果を業務内容に反映させているか		Yes アンケート結果は毎月集計し、回覧し、業務に反映させている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見) 利用者満足度については、具体的な目標数値を設定し、大学と連携するなど、調査そのものを工夫し、明確な形で公表・提示できるようにすべきである。			
③情報公開					
A 使命・目標・計画などの方針公開	館内掲示およびホームページ等を活用して情報公開が行われ、透明性が図られているか	Yes	Yes 公開している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 評価結果の公開			Yes 公開している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
3.施設、設備					
①施設設備の維持・管理					
A 定期点検の実施の有無	各種定期点検が行われているか。		Yes 法令等に基づいた点検のほか、定期的に点検を実施している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 改修・保全	改修・保全が行われているか。		Yes 改修・改善箇所の実施計画を立て安全面を優先して修理を実施しているが、修理箇所が多く間に合わないのが現状。今年度は優先順位の高い50件の修繕を実施した。	継続実施 予算の確保	【課題】 県教育委員会が行うべき修繕について当館が肩代わりしている。 【改善案】 大規模修理及び地震などによる突発的な修理に対しては県教育委員会とその都度協議を行う。
C 安全衛生の管理	安全衛生の管理が行われているか。		Yes	継続実施	
		(有識者 所見)			
②アメニティーの向上					
A バリアフリー	各館使命に基づいた施設のバリアフリー対策、万人に対応した受け入れ態勢がとられているか	できるだけYesをめざす。	No 景観再現という観点があり、完全バリアフリー化は難しい。総合案内所・風土記の丘資料館へのスロープ・手すりなどの設置継続をめざすが、今年度は実施できなかった。	継続実施	【課題】 景観再現とのすり合わせ 【改善案】 職員による介助などで可能な限り補う。
B アクセス	公共交通機関が機能しているか(含誘致)。駐車場が確保されているか。アクセス案内(サイン・インフォメーション)が迅速にかつ分かりやすく行われているか		Yes 8ヶ月間のJR成田線成田駅からの直通便を引き続き実施した。	サイン設置の検討	【課題】 サインの設置 【改善案】 適宜配置する。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	C ミュージアムショップ	商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客等が満足できるかどうか、また、アンケート調査等で来館者ニーズを把握しているか	できるだけYesをめざす。	No 今回、重点評価対象事業となったこともあり、重点的に改良を図った。導線の見直し、商品の配置、ディスプレイの整備などを行ったところ、目にみえて売場に足を運ぶ人が多くなった。	Yesをめざす。	【課題】 伝統工芸品販売は館の使命と直結し、縮小は考えないがその他の商品の入れ替え、新商品の開発など工夫が必要。 【改善案】 展示施設など各所での販売の拡充、無料ゾーンへの売店設置についても検討。
		(有識者 所見) ミュージアムショップの無料ゾーンへの移転について、館独自でできないのであれば、例えば移動販売者のような仮設の売店で営業するという方法もあるのではないかと。				

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
4.財源					
①予算の確保					
A 入場料収入	当初入場料収入計画に対する実際の入場料収入の達成率はどうか	24年度入場料収入目標19,500千円	入場料収入:18,863,000円 目標値比96%/前年度比96%	前年度並み	【課題】 入場料収入が生じる層の掘り起こしの強化が課題。特に広報に力を入れたい。 【改善案】 マスコミなどへの情報提供に更に力を入れる。
B その他の収入	その他の事業収入はどうか	24年度事業収入目標5千万円	事業収入:4400万円 目標値比86%/前年度比61% 製作体験費や生産物販売などの収入が伸びなかった。	前年度並み	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②館独自の財源獲得					
A 外部助成金等の獲得	外部助成金等を獲得しているか	Yes or No	No 当館の業務内容に必要な内容の外部助成が無かったため、あえて助成獲得は行わなかった。	計画的申請	【課題】 業務に必要な内容の判別 【改善案】 中長期計画に沿った業務進行状況との兼ね合いを計りつつ必要な内容の選別を行ったうえで戦略的かつ積極的に実施。
(有識者 所見)					
5.収集, 保存及び活用					
①資料収集					
A コンプライアンス	収集手続き(関連書類作成)等が滞りなく行われているか	Yes or No	Yes 適正。資料受け入れの窓口担当を設け、遺漏のない手続きを行っている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 寄託・寄付・購入点数	寄託・寄付・購入件数は何件・何点か	例年並み	受託:23/寄付:2,929/購入:350 新規なし。収蔵施設も十分でなく、館の性格上積極的な収集は行っていない。	例年並み	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
②資料保存					
A 保存処理	資料の保存処理が行われているか	Yes or No	○行われているか No ○予算要求を行っているか No 資料館資料は保存処理済み。民俗資料は行っていない。	必要に応じて行う。	【課題】 特になし 【改善案】
B 修復	資料の修復作業が行われているか	Yes or No	○適切に行われているか Yes 考古資料の整理作業の中で軽微な修復を行った。東日本大震災により破損した「銀象嵌大刀」については、館内での修復が困難かつ予算面で対応できないため未着手。 ○予算要求 Yes	必要に応じて行う。	【課題】 地震により破損した「銀象嵌大刀」の修復。 【改善案】 常設展示の資料換え計画なども念頭に置きながら、修復予算の要求を継続。
C 収蔵資料の維持管理	定期的に維持管理等が行われているか	Yes or No	○定期的な維持管理 Yes ○収蔵庫の温湿度管理 No 収蔵施設に空調設備がないことが資料保存上問題。一部、収蔵庫では、毎日除湿器の稼働・排水を行っている。風土記の丘資料館においては、温湿度の影響を受けない資料は一般収蔵庫に、金属資料・写真資料は特別収蔵庫に収蔵している。 ○入出者等の管理 Yes 収蔵庫は関係者以外立入禁止で施錠している。民俗資料はIPM(総合的害虫管理)により管理している。 風土記の丘資料館特別収蔵庫とむらの民俗資料の収蔵場所について、IPM調査を行った。結果、害虫もなく、温湿度とも適正に保たれていた。	継続実施	【課題】資料保管庫(空調設備付)等への大規模な施設改修は現時点では難しい。 【改善案】定期的な維持管理の実施。
(有識者 所見)					
③資料管理					
A 収蔵点数	収蔵資料の点数は何件・何点か		・収蔵資料点数:3,534点、10,605箱	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	B 登録(台帳・カードの記入)	収蔵している資料の管理が行われているか		・登録点数/収蔵点数:100 %	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			
④資料活用						
	A 貸出(博物館・学校・県民・マスコミ・研究および展示)	要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。	Yes or No	①資料の貸出 Yes ・実物:18件 ・画像:19件 ・閲覧15件894点 年度により件数変動。企画展などの内容によるものか。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
⑤一般図書管理					
A 収蔵図書の冊数	収蔵図書の冊数は何冊か		収蔵:29,296冊/購入:0冊/寄贈:318冊 発掘調査報告書や展示図録などの寄贈が多数。受け入れ・整理が遅れがちである。	継続実施	【課題】 収蔵場所不足。県内市町村史新刊等不可欠な基本図書の自発的な収集活動の不足。 【改善案】①不要刊行物の整理。②新刊情報の定期的チェックと、刊行物交換などによる市町村史の充実。
		(有識者 所見)			
6.調査・研究					
①調査事業					
A 調査事業の件数	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	Yes or No	Yes 演目や企画展に関連する調査を中心に、必要な調査活動が行われている。但し、担当部署によっては、普及事業などに時間を費やさざるを得ず、時間の確保が不十分なところもある。博物館業務として調査、研究は必須であることから、今後の課題である。	継続実施	【課題】 職員の時間確保 【改善案】 担当職員の分担事業の効率化
		(有識者 所見)			
②外部との調査・研究					
A 外部との調査研究の件数	外部団体等と共同して調査研究を行っているか		NO	必要に応じて実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
③研究成果の発表					
A 展示への反映	研究成果を常設展・企画展等の企画に反映させているか	Yes or No	Yes トピックス展、企画展、観察会、景観整備、体験事業などに反映。	反映の充実を目指す	【課題】 特になし 【改善案】
B 研究成果の学術的公表(館独自項目)	学会誌や館の報告書等の論文執筆を行い、発表を行っているか	Yes or No	Yes 研究成果は報告書の意味合いを兼ねた企画展図録などに反映させているほか、各テーマごとの報告書を予定。また、各人による学会誌などへの発表も行われている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
7.展示					
①常設展示					
A 展示更新回数・点数	計画的な展示替えが行われているか	Yes or No 回数, 点数	○展示替の計画 Yes ○計画通りに展示替 Yes 体験や行事毎に各施設で展示替えを行っているため、カウント不可能。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 展示保守・管理状況	計画的な保守や管理が行われているか	Yes or No	①保守・管理計画 Yes ②計画通り実施 No ③予算要求 Yes 予算要求をしているが、予算確保には至っていない。 ④展示中事故(職員・来館者) No(無)	継続実施	東日本大震災により閉鎖されていた商家2階展示室など一部常設展について、耐震対策の施行を終え、再開した。
C 満足度	来館者が常設展示に満足しているか	アンケート実施	①満足しているか Yes アンケートでは概ね好評な意見。ホームページ・ブログチェックでは満足度は高いと思われる。 ②入場料金:適切	満足度アップを目指す	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②企画展示(入場料の変更が必要な展示)					
A 入場者情報(数・年齢・地域など)	入場者の動向把握を行っているか		Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向の分析を行っている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 満足度	来館者が企画展示に満足しているか		①5.非常に良かった(5.4.が大多数) ②入場料金:適切(アンケート結果)		【課題】 ニーズの検証 【改善案】 検証結果を次回展示に反映させる。
		(有識者 所見)			
③出前展示					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、または展示の要望があったか		6回 「旅フェア2011」「そごうキッズアカデミー」 「昔のくらし体験教室」「伝統文化の森まつり」「いんばふれあいフェス」「佐倉時代まつり」など、イベント会場などで館の内容を紹介するミニ展示や、体験学習コーナー設置の要望があり、実施した。	継続実施	【課題】 学校などから本格的な展示の要望があった場合の対応。 【改善案】 他の県立館との役割分担。
	B 満足度	利用者が満足しているか		体験参加者からは大変好評であった。	満足度アップを目指す	【課題】特になし 【改善案】
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
④他館との合同企画による展示					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか、併せてネットワークを活用した企画であったか		1件:「出土遺物巡回展(+解説会)」を実施した。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 満足度	来館者が満足しているか		アンケートの結果、概ね好評であった。		【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
⑤企画展示(入場料を変更しない展示)					
A 展示企画数	何回展示企画を行い実施したか		トピックス展:3回	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
B 満足度	利用者が満足しているか		来館者が帰宅後ブログなどに掲載する感想などから、概ね満足されていると思われる。アンケートでは、他内容も含まれてしまうため、集計不可能。		【課題】 アンケートの有効数不足 【改善案】 アンケート内容の検討
(有識者 所見)					
8.教育普及事業					
①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等					
A 体験学習等の回数	各館使命に基づいた体験学習等をどのくらい行っているか		・演目:年間 390種類(実演含む) ・まつり等イベント:7種 ・連携事業(音楽会・ウォークラリー等):5種 随時受付があるため、正確な回数は算出不能。	数値目標の必要はないと思われる。	【課題】 内容の更なる充実 【改善案】
B 体験学習等の参加者数	個々の事業に参加した人数は何人か	参加体験事業参加者総数14万5千人	参加者数:140,129人 まつり入場者の減少が体験者数にも影響し、昨年より減となった。なお、事業毎の参加者数は把握しているが個別記載不能。定員を定めない演目があり、達成率は算出不能。	参加体験事業参加者総数15万人	【課題】 特になし 【改善案】
C 満足度	参加者は満足しているか		アンケート調査による5段階評価: 満足51% やや満足11% やや不満3.9% 不満0.3% 回答者のうち9割以上の方が満足・やや満足と回答している。		【課題】 不満な方の求める内容を知り、さらなる充実をはかる。 【改善案】 来館者ニーズの把握と共に、地域・時代・学術性にこだわった「ここでしかできない体験」を継続。実社会で途絶えかけている伝統技術や文化の継承に努める。
(有識者 所見)					
②講演会					
A 講演会の回数	各館使命に基づいた講演会をどのくらい行っているか		9回 ・考古学講座(4回)・むらの寺子屋(1回)、 おもしろ講座(4回)	前年度並み	【課題】 職員の専門性を活かした講演会・講座の回数が少なめ。 【改善案】 一層の充実を図る。
B 講演会の参加者数	講演会に参加した人数は何人か		668人(定員充足率:128%) 内容、開催方法によって参加者数に大きな偏りが生じた。今後、幅広い層のニーズを把握し、開催形式や内容を検討する必要がある。		【課題】 講演内容の多様化と実施方法の検討 【改善案】 内容に応じて、広報ターゲットを変えるなど工夫する。
C 満足度	参加者は満足しているか		非常によかった、面白かったという意見が多かった。	満足度アップを目指す	【課題】 館の独自性を活かした内容の充実 【改善案】
(有識者 所見)					
③体験学習					
A 新規演目数	新規演目数		・新規演目数:12演目	—	【課題】 特になし 【改善案】
B 団体体験の参加者数	団体体験の参加者数(増減)	4万人	・456団体 総数:40,289(前年度比+111)	前年度並み	【課題】 特になし 【改善案】
C 業務	業務は円滑に行われているか		Yes 職員相互のサポート体制により業務を円滑に進める努力がなされているが、施設ごとの事業であり、情報・指示の伝達や共有について留意が必要。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

	共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
	D 体験者増加への工夫	体験者が増えるように工夫しているか		Yes (館職員アンケート:5段階の4) ちらしの掲示・配布やリピーター獲得のため体験終了後の案内、定員オーバーで希望を受けられない場合の他演目の速やかな案内など職員各自が意識して取り組んでいる。	継続実施	【課題】 内容のさらなる充実 【改善案】 ニーズを把握し、内容の充実を図る。
	E 来館者への説明と接客の工夫	来館者への説明と接客態度を工夫しているか		Yes 体験者の「興味関心」「達成感」などに配慮しつつ、分かりやすい言葉で直接話しかける説明を重視。技術員等に対する接客研修もたびたび実施しており、体験者の年齢やレベルに応じてきめ細かく対応できている。	継続実施	【課題】 説明・接客方法のさらなる工夫 【改善案】 体験者からのニーズを現場で聞きながら、工夫を重ねる。特に、実物資料などを用いた目に見える解説を充実させる。
			(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
④イベント					
A イベントの回数	何回実施したか(増減)		回数:7回, 前年度から1回増加		
B イベントの参加者数	参加者は何名だったか(増減)	さくら:8,000 春:23,000 夕涼み:8,000 稲穂:9,000 ふるさと:16,000 お正月:7,000	○7事業:人数(前年度比) ・さくらまつり:9,671(+8,552) ・春の祭り(端午の節供):191,811(-3,023) ・むらの緑日・夕涼み:14,481(+6,565) ・稲穂まつり:37,09(-4,072) ・ふるさとまつり:21,375(+3,490) ・地域感謝デー:1,482(-10,140) ・むらのお正月:11,900(+4,001) 野外のイベントがほとんどであり、天候に大きく左右されたが、全体で見れば昨年度より増加が見られた。	さくら:10,000 春まつり:20,000 夕涼み:15,000 稲穂:4,000 ふるさと:22,000 地域感謝:2,000 お正月:12,000	【課題】 特になし 【改善案】
C イベントの楽しさの演出	まつりらしい楽しさを演出する工夫をしているか		Yes (館職員アンケート:5段階の4) 各まつり毎にテーマを設定し、季節感を出す工夫を講じているが、毎年恒例であり、イベントの間隔が短い(7回/年)、新鮮味が薄れてきている部分もある。各職員は笑顔心を心がけ、季節感や丁寧な対応など各自心がけている。	継続実施	【課題】 マンネリ化を防ぐ工夫 【改善案】 他の施設では真似できない、房総のむらならではの独自の内容を強化する。
D イベントの準備	準備は円滑に行われているか		Yes 最大限の体験者数を想定し、タイムスケジュールや人員配置などを職員全体で確認しながら準備しており、円滑に行われている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
E イベントの参加者増加への工夫	参加者が増えるように工夫しているか		Yes 通常のチラシ配布に加え、マスメディアへの取材対応も積極的に行っている。また、毎回少しずつ目新しい演目や演出を工夫し、来館者は順調に増加している。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
F イベントの参加者への説明の工夫	参加者への説明の方法を工夫しているか		Yes 事前のちらしだけでなく当日用の詳細なちらしの配布、案内板、アナウンスなどが効果的に行われている。混雑時には時間予約の形になるので、参加者が不快な思いをしないよう特に丁寧な説明が行われている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
G イベントの参加者満足への工夫	参加者が満足するように工夫しているか		Yes イベント終了後毎に全職員にアンケートを行い、反省点を挙げていることが、次年度への改善につながっている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A 電話・来館面接等の質問	県民からの問い合わせ等に対応しているか	Yes or No	Yes 職員が在館していれば、休館日や時間外でも対応している。	継続実施	【課題】 さらなる対応アップ 【改善案】 対応体制のさらなる向上
		(有識者 所見)			
②メディアへの情報発信					
A 発信/掲載件数	メディアへ館事業(含む調査研究)の情報提供及び広報活動を行っているか	Yes or No	①定期的な情報発信 Yes 有料紙面による広報広告などの展開 ②協力要請への対応 Yes(106件)	継続実施	【課題】 企画展時などのメディアへの情報発信。 【改善案】 積極的発信を目指す。
		(有識者 所見)			
③ホームページによる広報					
A ホームページの更新件数・アクセス数・資料検索システムの登録件数	更新がなされているか、アクセス数はどのくらいか、資料検索システムの登録件数はどのくらいか		①定期的な更新 Yes(145回) ②アクセス件数270,734件(119%) ③登録件数 42,942件(100%)	前年度並み	【課題】 上昇傾向を目指す。 【改善案】 件数等の充実はもとより、内容の充実も図る。

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
		(有識者 所見)			
④印刷物の刊行					
A 印刷物による情報提供及び広報活動	館事業等の情報提供及び広報活動を行っているか	Yes or No ポスター・チラシ回数/小チラシ回数	Yes(28種) ・行事案内ポスター・チラシ7種 ・体験のしおり等冊子4種 ・利用案内パンフレット10種 ・行事案内小チラシ7種	継続実施	【課題】 紙媒体の有効活用 【改善案】 効果測定を行い、戦略的な広報活動を実施する。
		(有識者 所見)			

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
⑤図書室の公開					
A 図書資料の閲覧	図書の閲覧がスムーズに行われるシステムになっているか	Yes or No	Yes 資料館1階情報室にて基本図書の閲覧が常時可能になっている。	継続実施	【課題】 職員が他業務と併せて行っているため、最新の学術雑誌などの整理が一部遅れ気味 【改善案】 担当職員の増員
		(有識者 所見)			
10. 県民参画					
①県民との協働					
A ボランティア	ボランティアを配置し、活用するシステムが構築されているか。	Yes or No	Yes(登録延べ133人/活動延べ418日)活動日数に差があるが、ほとんどのボランティアが本館の趣旨を理解し活動している。	継続実施	【課題】 ボランティア活動のさらなる充実 【改善案】 活動の場の充実
B 県民からの情報提供	県民から情報を入手する体制がとられているか。	Yes or No	Yes 県民からの情報は、電話、電子メール、アンケート等日常的に得られるので、件数ははかりかねるが、資料調査等博物館の様々な活動の情報源のひとつとして積極的に取り入れている。	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
C 友の会	友の会はあるか		Yes		
D 友の会との協働事業	友の会と協働した事業を行っているか		Yes ふるさとまつりを実施		【課題】 相互の目的や趣旨の再確認と館独自の特色を活かした内容の検討 【改善案】 意見交換の活発化
		(有識者 所見) ガイドボランティアについては、実際に一般の方々からどのようなニーズがあるのか、整理して事業に反映してほしい。			
②NPO・外部機関との連携・調査					
A NPO・外部機関の研究会との連携・調査	連携・調査のシステム(受け入れ態勢等)が構築され、連携が行えるようになっているか	Yes or No	城西国際大学メディア学部との博学連携事業で策定した房総のむらマスコットキャラクター「ぼうじろー」の着ぐるみを製作し、館内外で出演した。また、「ユニセフ協会千葉県支部」と共同で館内を会場にウォーキングを実施した。	更なる充実を目指す	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
11. 人材育成					
①博物館実習					
A 博物館実習の人数	博物館実習を行っているか		Yes(8人)	継続実施	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
②教員等研修					
A 教員等研修の回数・人数	教員研修を行っているか	Yes or No 回数	Yes(2回:67人) 参加者は下見や体験の相談を兼ねての目的で参加しているため、需要は伸びている。また、毎年房総のむらの活用方法・事例等に関し、「教職員を対象とした研修会」を開催している。	継続実施	【課題】 参加希望者数の増加への対応 【改善案】 教員研修会開催日数の増加。
		(有識者 所見)			
③職場体験学習・インターンシップ					
A 職場体験学習・インターンシップの回数・人数	職場体験等を受け入れているか	Yes or No	Yes(10回:26人)	前年度並み	【課題】 特になし 【改善案】
		(有識者 所見)			
④ボランティア育成					
A ボランティア育成の研修回数・人数	ボランティア育成のための研修が行われているか	Yes or No	Yes(3回:25人) 学芸員による企画展、トピックス展の解説を行った。また、新規ボランティアについては各担当職員と先輩ボランティアから活動に関する説明を随時行った。	継続実施	【課題】 必要な研修内容のリサーチ 【改善案】 ボランティアとの対話の中で随時改善を図るなど必要な事項の検討及び具現化
		(有識者 所見)			
12. 県民等からの依頼による学習支援					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
①常設展示・企画展示等の活用					
A 常設展示・企画展示等の解説回数・人数	定期的な解説や要望に応じるシステムになっているか	Yes or No	Yes 団体解説の要望が増加しているが、対応できるシステムである。また、ボランティアによる解説会の回数や館職員による解説会も増えている。	前年度並み	【課題】 解説要望の増加への対応 【改善案】 解説ボランティアの更なる増員・育成
(有識者 所見)					
②館内における講座・講演会活動					
A 講座・講演会の回数・人数	要望に応じるシステムになっているか	Yes or No	Yes	前年度並み	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					

自己評価シート(自己評価結果及び次年度の目標設定)

館名 県立房総のむら

共通小項目	チェック内容	平成24年度 目標値指標	自己評価結果・所見	平成25年度 目標値指標	当該項目に関する課題と改善案
③学校連携事業					
A 学校団体の受け入れ	学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供しているか	Yes or No	Yes 総数:381校 35,952人 体験数:395件 973回 38,071人	上昇傾向を目指す	【課題】 特になし 【改善案】
B 出前授業	出前授業を受け入れる体制が整っており、支援を行っているか	Yes or No	Yes 9件 15日間	前年度並み	【課題】 特になし 【改善案】
(有識者 所見)					
④外部依頼講師(大学, 行政研修会など他組織)					
A 外部依頼講師の回数・人数	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか	Yes or No	Yes(9回)	前年度並み	【課題】 職員の館内業務に支障がないような時間配分 【改善案】 個人ではなく館全体とし依頼を受け、館内で振り分けを行うことも検討する。
(有識者 所見)					
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A 社会教育機関・地域住民等との連携	連携事業を行っているか	Yes or No	Yes	前年度並み	【課題】 連携手法の構築 【改善案】 連携する相手との綿密な協議。
(有識者 所見)					
②観光資源としての活用					
A 県外団体来館数	県外の利用はどのくらいあるのか	上昇傾向を目指す	264団体8,417人(うち海外団体2,471人で昨年度より2,073人の増) 東京(56),茨城(62),台湾(42、昨年度より36団体の増)など 東日本大震災の影響で減少していた海外団体が、再び回復傾向にある。	上昇傾向を目指す	【課題】 利用促進 【改善案】 観光業者等への更なる情報提供を図る。
B 外国人入場者数	外国人の利用はどのくらいあるのか	3	・3,787人 ・配付資料の種類 15種類(館パンフ英・韓・中・繁),ウェルカムカード(英・韓・中・繁),ようこそ日本!スペシャル体験パンフレット(英・韓・中・繁),モデルコースパンフレット(英・中・韓国) 震災前に比べると、中国本土と韓国は減少したままではあるが、台湾・タイ国の団体が増加した。	上昇傾向を目指す	【課題】 海外メディアへの積極的なPR 【改善案】 国・県による海外メディアの取材を受け入れる事業に積極的に参加する。
C ロケ実施件数	ロケ実施件数		57件 前年度を上回る数のロケが行われ、TBS「逃走中」等の放映後は多数の来館者があった。		【課題】 撮影の立ち会いなど、担当職員に負担が集中している。 【改善案】 負担の集中を避けるため、担当職員数を増やす。
(有識者 所見) 外国人向けパンフレットのうち、よく出ているものと実際に入館者が多い国別の対比を行っておくとよい。					